ヘテ智慧ノ心ヲ獲セシメ給ヘ 十三 主ヤ面ヲ回セヨ何ノ時ニ至ルヤ爾ノ僕ヲ憐ミ給ヘ 十四 夙ニ爾ノ憐ヲ以テ我等ニ飽カシメヨ然セバ我等生涯歡ビ樂マン 十五 爾嘗テ我等ヲ撲ノ日ト我等ガ禍ニ遭ヒシ年ニ代ヘテ我等ヲ樂マシメ給ヘ 十六 願ハ爾ノ行フ所ハ爾ノ諸僕ニ著レ爾ノ光榮ハ其諸子ニ著レン 十七 願ハ主吾ガ神ノ惠ハ我等ニ在ラン願ハ我ガ手ノ工作ヲ我等ニ佑ケ給ヘ我ガ手ノ工作ヲ助ケ給ヘ

第九十一聖詠

（ダワイドノ讃歌）

一 至上者ノ覆ノ下ニ居ル者ハ全能者ノ蔭ノ下ニ安ンズ二

主ニ謂フ爾ハ我ノ避所我ノ防禦我ガ賴ム所ノ我ノ神ナリト 三 彼ハ爾ヲ獵者ノ網ヨリ滅ノ疫ヨリ脱サン 四 彼ハ其翮ニテ爾ヲ覆ハン其翼ノ下ニテ爾危カラザルヲ得ン彼ノ眞實ハ楯ナリ鎧ナリ 五 爾ハ夜ノ震驚ト晝ノ流矢 六 闇冥ニ行ク行疫ト正午ニ暴ス瘴疫ヲ懼レズ 七 千人爾ノ側ニ萬人爾ノ右ニ仆ルレモ爾ニ近ヅカザラン 八 爾只目ヲ注ギテ不虔ノ者ノ報ヲ見ン 九 蓋爾謂ヘリ主ハ我ノ恃ナリト爾至上者ヲ擇ンデ爾ノ避所トセリ 十 惡ハ爾ニ臨マズ疫癘ハ爾ノ住所ニ近ヅカザラン 十一 蓋爾ノ事ヲ己ノ使ニ命ジテ凡ソ爾ノ路ニ爾ヲ護ラシメン 十二 其手ニテ爾ヲ抱ヘ爾ノ足ヲ石ニ蹶

カザラシメン 十三 爾蝮ト毒蛇トヲ踐ミ獅ト大蛇トヲ蹈マン
トス 十四 彼我ヲ愛スルニ因テ我之ヲ脫サン彼我ノ名ヲ識ル
ニ因テ我之ヲ衞ラン 十五 我ヲ呼ベバ我彼ニ聽カン憂ノ時我
彼ト偕ニシ彼ヲ脫シ彼ヲ榮セン 十六 壽ヲ以テ彼ニ飽カシメ
我ノ救ヲ彼ニ顯サン

光榮讚詞

第十二「カフィズマ」

第九十一聖詠

一 「スボタ」ノ詠ナリ歌ナリ
二 至上者ヤ主ヲ讚榮シ爾ノ名ニ歌ヒ 三 爾ノ憐ヲ朝ニ宣ベ
爾ノ眞ヲ夜ニ宣ベ 四 之ヲ宣ルニ十絃ノ樂器ト琴トヲ以テシ
歌ト謳ヲ以テスルハ美ナル哉 五 主ヤ蓋爾ハ爾ノ作爲ヲ以
テ我ヲ樂マセリ我爾ガ手ノ工作ヲ歡樂ム 六 主ヤ爾ノ工作
ハ何ゾ大ナルヤ爾ノ思ハ奇妙ニ深シ 七 不知ナル人ハ之ヲ
知ラズ愚ナル者ハ之ヲ悟ラズ 八 惡者ハ草ノ如ク生ジ不法
ヲ行フ者ハ花サキテ永ク亡ブ 九 主ヤ唯爾ハ永遠ニ高シ 十
蓋視ヨヤ爾ノ敵主ヤ視ヨ爾ノ敵ハ滅ビ凡ソ不法ヲ行フ者
ハ散ズ 十一 然レ𪜈我ガ角ハ爾之ヲ擧ルヿ兕角ノ如シ我新ナ
ル膏ヲ傅ケラレタリ 十二 我ガ目ハ我ガ敵ヲ見我ガ耳ハ起テ
我ヲ攻ル惡者ノヿヲ聞ク 十三 義人ハ棕櫚ノ如ク高ク

ナルヿリワンノ栢香木ノ如シ 十四 彼等ハ主ノ室ニ植付ケラ
レテ我ガ神ノ院ニ繁ル 十五 彼等ハ老ユルモ實ヲ結ビ潤アリ
且新ニシテ 十六 主我ガ防固ノ義ニメ其中ニ不義ナキヲ表ハ
スヲ致ス

第九十二聖詠

(ダワイドノ讚歌「スボタ」ノ前日卽地ノ生殖セ
ラレシ日ニ用フル所)

一 主ハ王タリ彼ハ威嚴ヲ衣タリ主ハ能力ヲ衣又之ヲ帶ニ
セリ故ニ世界ハ堅固ニシテ動カザラン 二 爾ノ寶座ハ古ヨ
リ堅立シ爾ハ世々ノ前ニ在リ 三 主ヤ諸川騰ゲ諸川其聲ヲ
騰ゲ諸川其波ヲ騰グ 四 然レモ主ハ最高ニ在テ能力アルハ
多水ノ聲ニ勝リ海ノ激浪ニ勝レリ 五 爾ノ啓示ハ誠ニ正シ
主ヤ聖德ハ爾ノ家ニ屬シテ永遠ニ至ラン

第九十三聖詠

(ダワイドノ詠七日ノ第四日ニ用フル所)

一 仇テ報ユルノ神ヤ主仇ヲ報ユルノ神ヤ已ヲ顯ハセヨ 二
地ノ審判者ヤ起テ驕慢ノ者ニ報イヨ 三 主ヤ惡者ハ何ノ時
ニ至ラントスルヤ惡者ハ凱ヲ揚ルヿ何ノ時ニ至ラントス
ルヤ 四 彼等ハ輕侮ノ言ヲ吐キ凡ソ不法ヲ行フ者ハ自誇ル
五 主ヤ彼等ハ爾ノ民ヲ蹊ミ爾ノ業ヲ迫害シ 六 寡婦ト旅客

ヲ殺シ孤子ヲ亡シテ 七 謂フ主ハ視ザランイヤコフノ神ハ
知ヲザラン 八 不智ナル人々ヤ悟レヨ愚ナル者ヤ爾等ハ何
ノ時智ナランスルヤ 九 耳ヲ植エシ者豈ニ聞カザランヤ
目ヲ造リシ者豈ニ視ザランヤ 十 諸民ヲ諭シ人ノ智ヲ開ク
者豈ニ譴メザランヤ 十一 主ハ人ノ思念ノ虚キヲ知ル 十二 主ヤ
爾ガ諭シ爾ノ法ヲ以テ誨ヘテ 十三 艱難ノ日即悪者ノ爲ニ阱
ノ掘出サルヽニ至ルマデ平安ヲ得セシムルノ人ハ福ナリ
十四 蓋主ハ其民ヲ棄テズ其業ヲ遺サゞラン 十五 蓋審判ハ義ニ
歸シ心ノ正キ者ハ皆之ニ從ハン 十六 誰カ我ガ爲ニ起テ悪者
ヲ攻メンヤ誰カ我ガ爲ニ起テ不法ヲ行フ者ヲ攻メシヤ 十七

若主我ヲ助ケザレハ我ガ靈速ニ默スノ地ニ移住マシ 十八 主
ヤ我足ヲ失フト謂ヒシキ爾ノ憐我ヲ扶ケリ 十九 我ガ心ニ我
ガ憂ノ加ハルキ爾ノ慰ハ我ガ靈ヲ安ンズ 廿 殘害者法ニ背
テ暴虐ヲ謀ル者ノ座ハ豈ニ爾ノ傍ニ設ケラレンヤ 廿一 彼等
ハ群テ義人ノ靈ヲ攻メ無辜ノ血ヲ罪ス 廿二 然レモ主ハ我ガ
守護ナリ我ガ神ハ我ガ避所ノ固ナリ 廿三 彼等ノ不法ヲ彼等
ニ反シ彼等ノ悪業ヲ以テ彼等ヲ亡サン主我ガ神ハ彼等ヲ
亡サン

第九十四聖詠

光榮讚詞

(ダワイドノ讚歌)

一 來リテ主ニ歌ヒ神我ガ救ノ防固ニ呼バン 二 讚揚ヲ以テ其顏ノ前ニ進ミ歌ヲ以テ彼ニ呼バン 三 蓋主ハ大ナル神大ナル王ニシテ諸神ニ勝ル 四 地ノ深キ處ハ其手ニアリ山ノ巓モ彼ニ屬ス 五 海ハ彼ニ屬ス彼之ヲ造レリ陸モ亦其手ノ造リシ所ナリ 六 來レ叩拜俯伏シテ主我ガ造物主ノ顏ノ前ニ膝ヲ屈メン 七 蓋彼ハ我ガ神ナリ我等ハ其草苑ノ民其手ノ羊ナリ嗚呼望ラクハ爾等今我ガ聲ヲ聞カン 八 曰ク爾等ノ心ヲ頑ニスルコトメリワニアルガ如ク試ノ日ニ野ニアルガ如クスル毋レ 九 彼處ニ在テ爾等ノ先祖ハ我ヲ試ミ我ヲ驗シ我ガ所爲ヲ見タリ 十 四十年間我此世ノ怒ラス所トナレリ我謂ヘリ此心ノ迷ヘル民ナリ彼等ハ我ガ道ヲ悟ラズ 十一 故ニ我ハ我ガ怒ニ於テ誓ヘリ彼等ハ我ガ安息ニ入ラザラント

第九十五聖詠

(ダワイドノ讚歌宮室ノ造營ニ用フル所)

一 新ナル歌ヲ主ニ歌ヘヨ全地ヤ主ニ歌ヘヨ 二 主ニ歌フテ其名ヲ崇讚メ其救ヲ日々ニ傳ヘヨ 三 其光榮ヲ諸民ノ中ニ知ラセ其奇跡ヲ萬族ノ中ニ知ラセヨ 四 蓋主ハ大ニシテ讚美セラルベク彼ハ悉ノ神ヨリ畏ルベシ 五 蓋諸民ノ悉ノ神

ハ偶像ナリ惟主ハ諸天ヲ造レリ 六 光榮ト威嚴ハ其顏ノ前ニ在リ能力ト美好ハ其聖所ニ在リ 七 諸民ノ諸族ヤ主ニ歸セヨ光榮ト尊敬ヲ主ニ歸セヨ 八 其名ノ光榮ヲ以テ主ニ歸セヨ禮物ヲ携ヘテ其院ニ入レヨ 九 聖ノ美ナルニ於テ主ヲ拜メヨ全地ヤ其顏ノ前ニ戰ケヨ 十 諸民ニ言フベシ主ハ王トナリ世界堅固ニシテ搖カザラン彼ハ義ヲ以テ諸民ヲ審判セン 十一 諸天ハ樂ムベシ地ハ祝フベシ海ト其中ニ盈ル者ハ鳴ルベシ 十二 田ト其中ニ在ル者ハ喜ブベシ林ノ諸木ハ主ノ顏ノ前ニ歌フベシ 十三 蓋來リ來リテ地ヲ審判セン彼ハ義ヲ以テ世界ヲ審判シ眞實ヲ以テ諸民ヲ審判セン

* 諸神ハ七十人ノ翻譯ニ彼ガ悉ノ神使ニ作ル

第九十六聖詠

（ダワイドノ詠其國治ル時此ヲ作ル）

一 主ハ王タリ地ハ歡ブベシ多數ノ島ハ樂ムベシ 二 雲ト闇冥ハ彼ヲ環ル義ト審判ハ其寶座ノ基ナリ 三 火ハ其前ニ行キ四周ニ其敵ヲ焚ク 四 其電ハ世界ヲ照シ地ハ見テ震フ 五 山ハ蠟ノ如ク主ノ顏ニ緣テ融ケ全地ノ主ノ顏ニ緣テ融ク 六 天ハ其義ヲ傳ヘ萬民ハ其光榮ヲ觀ル 七 凡ソ雕刻メル像ニ事フル者偶像ヲ以テ自誇ル者ハ羞ヲ蒙ルベシ諸神ヤ彼ノ前ニ伏拜セヨ 八 主ヤシオンハ聞テ悅ビイウダノ女ハ皆爾ノ審判ニ因テ樂ム 九 主ヤ蓋爾ハ高キ全地ニ踰エ崇メ

ヲル、ヿ諸神ニ踰ユ　十主ヲ愛スル者ヤ惡ヲ惡メヨ彼ハ其聖人ノ靈ヲ護リ之ヲ惡者ノ手ヨリ脱ガレシム　十一光ハ義人ヲ照シ樂ハ心ノ正キ者ニ注ガル　十二義人ヤ主ノ爲ニ悅ベヨ其聖ヲ思フテ讚美セヨ

光榮讚詞

第九十七聖詠

（ダヷイドノ詠）

一新ナル歌ヲ主ニ歌ヘヨ蓋彼ハ奇迹ヲ行ヘリ其右ノ手ト其聖ナル臂ハ彼ノ爲ニ勝ヲ獲タリ　二主ハ其救ヲ顯シ萬民ノ目ノ前ニ其義ヲ示セリ　三彼ハ其イヤコフニ施セル憐ト

イズライリノ家ニ施セル誠ヲ記憶セリ　四凡ソ地ノ極ハ我ガ神ノ救ヲ見タリ全地ヤ主ニ籲ベヨ祝ヒ樂ミ歌ヘヨ　五琴ヲ以テ主ニ歌ヘヨ琴ト聖詠ノ聲ヲ以テセヨ　六笳ト角ノ聲ヲ以テ主王ノ前ニ祝ヘヨ　七海ト其中ニ滿ツル者世界ト其中ニ居ル者ハ聲ヲ發スベシ　八河ハ掌ヲ拍ツベシ山ハ之ト共ニ主ノ顏ノ前ニ祝フベシ　九蓋彼來テ地ヲ審判セン彼ハ義ヲ以テ世界ヲ審判シ誠ヲ以テ萬民ヲ審判セン

第九十八聖詠

（ダヷイドノ詠）

一主ハ王タリ萬民戰クベシ彼ハヘルヷイムニ坐ス地ハ震フ

ベシ 二 主ハシオンニ在テ大ナリ其高キヿ衆民ニ逾ユ 三 願
ハ彼等爾ノ大ニシテ畏ルベキ名ヲ讚榮セン是聖ナリ 四 王
ノ能力ハ審判ヲ喜ブ爾ハ正理ヲ定メリ爾ハイヤコフノ中
ニ審判ト義ヲ行ヘリ 五 主我ガ神ヲ崇讚メ其足凳ニ伏拜メ
ヨ是聖ナリ 六 司祭ノ中ニモイセイア、ロンアリ彼ノ名ヲ
呼ブ者ノ中ニサムイルアリ彼等主ニ呼ベバ主彼等ニ聽ケ
リ 七 彼ハ雲柱ノ中ニ於テ彼等ニ云ヘリ彼等ハ其誡ト其彼
等ニ賜ヒシ律ヲ守レリ 八 主我ガ神ヤ爾彼等ニ聽ケリ爾ハ
彼等ノ爲ニ彼等ヲ恕シ又彼等ノ行ヲ罰スルノ神タリ 九 主
我ガ神ヲ崇讚メ其聖山ニ伏拜メヨ主我ガ神ハ聖ナレバナ

リ

第九十九聖詠

(ダワイドノ)讚詠

一 全地ヤ主ニ籲ベヨ 二 樂ヲ以テ主ニ事ヘヨ呼聲ヲ以テ其
顏ノ前ニ詣レヨ 三 主ハ神ニシテ我等ヲ造リ我等彼ニ屬シ
テ其民其草苑ノ羊ナルヲ知レヨ 四 讚頌ヲ以テ其門ニ入リ
讚美ヲ以テ其院ニ入レヨ彼ヲ讚榮シ其名ヲ崇讚メヨ 五 蓋
主ハ仁慈ニシテ其憐ハ永遠ニアリ其眞實ハ世々ニ至ラン

第百聖詠

ダワイドノ詠

一 我憐ト審判ヲ歌ハン主ヤ爾ニ歌ヲ奉ラン 二 我玷ナキ道ヲ思ハン爾何ノ時我ニ至ルヤ我玷ナキ心ヲ以テ我ガ家ノ中ニ行カン 三 我ガ目ノ前ニハ邪ナル物ヲ置カザラシ法ニ背クノ行ハ我之ヲ疾ム其レ必我ニ附カザラン 四 壞レシ心ハ我ニ遠ザカリ惡キ者ハ我之ヲ識ラザラン 五 隱ニ己ノ隣ヲ謗ル者ハ我之ヲ逐ヒ目傲リ心高ブル者ハ我之ヲ容レザラン 六 我ガ目ハ斯ノ地ノ忠信アル者ヲ顧ミ彼等ヲ我ガ傍ニ居ラシメントス玷ナキ路ヲ行ク者ハ我ニ事ヘン 七 詭心ヲ行フ者ハ我ガ家ニ居ルヲ得ズ誑ヲ言フ者ハ我目ノ前ニ止ラザラシ 八 晨ニ我此ノ地ノ悉ノ不虔者ヲ滅シ凡不法ヲ

行フ者ヲ主ノ城邑ヨリ絶レシメントス

光榮讃詞

第十四「カフィズマ」

第百一聖詠

一 困苦ノ人ノ祈禱ナリ其憂テ主ノ前ニ其哀情ヲ傾クル所

二 主ヤ我ガ禱ヲ聽キ給ヘ願ハ我ガ呼ブ聲ハ爾ニ至ラン 三 爾ノ顏ヲ我ニ匿ス勿レ我ガ憂ノ日爾ノ耳ヲ我ニ傾ケ給ヘ我ガ爾ニ呼ブノ日速ニ我ニ聽キ給ヘ 四 蓋我ガ日ハ煙ノ如ク消エ我ガ骨ハ燼ノ如ク焚カレタリ 五 我ガ心ハ擊タレ

テ枯レシ草ノ如ク我ハ我ガ餅ヲ食フヲ忘ル、ニ至ル 六
我ガ呻吟ノ聲ニ依テ我ガ骨ハ我ガ肉ニ貼ケリ 七 我ハ野ニ
在ル鵜鶘ノ如ク荒舍ニアル鴟鴞ノ如クナレリ 八 我ガ眠ラ
ズシテ坐スルハ屋蓋ニアル孤鳥ノ如シ 九 我ガ敵ハ日々ニ
我ヲ誇リ我ヲ恨ム者ハ我ヲ指シテ誓フ 十 我ハ灰ヲ食フヿ
餅ノ如ク我ガ飲物ニ涙ヲ和ユ 十一 爾ノ怒ト爾ノ憤ニ因テナ
リ蓋爾曾テ我ヲ擧ゲ復我ヲ墮セリ 十二 我ガ日ハ傾ケル晷ノ
如ク我ガ枯レシ草ノ如シ 十三 唯主ヤ爾ハ永ク存ス爾ヲ記
憶スルハ世々ニ在リ 十四 爾起キテ憐ヲシオンニ垂レシ蓋之
ヲ憐ムノ時至レリ蓋時來レリ 十五 爾ノ僕ハ其石ヲモ愛シ其

塵ヲモ惜メバナリ 十六 諸民ハ主ノ名ヲ畏レ地上ノ諸王ハ爾
ノ光榮ヲ畏レン 十七 蓋主ハシオンヲ建テ、己ガ光榮ノ中ニ
顯ハレン 十八 無憑者ノ禱ヲ顧ミテ其願ヲ輕ゼザラン 十九 是レ
後ノ世ノ爲ニ記サレ未來ノ民ハ主ヲ崇讃メン 廿 蓋彼ハ其
聖ナル高キ所ヨリ俯シ臨メリ主ハ天ヨリ地ヲ鑒ミ 廿一 俘ノ
呻吟ヲ聞キテ死ノ子ヲ解カント欲ス 廿二 彼等ガ主ノ名ヲシ
オンニ知ラシ其譽ヲイエルサリムニ知ラサンガ爲ナリ 廿三
是諸民諸國ガ均ク集リテ主ニ事フル時ニ在リ 廿四 彼曾テ途
中ニ於テ我ガ力ヲ弱メ我ガ日ヲ短クセリ 廿五 我謂ヘリ吾ガ
神ヤ我ガ日ノ半ニ於テ我ヲ取上ルヿ勿レ爾ノ年ハ世々ニ

在リ 廿六 主ヤ爾初ニ地ヲ基ケ天モ爾ガ手ノ造リシ所ナリ 廿七 彼等ハ亡ビン唯爾ハ永ク存セン彼等ハ皆衣ノ如ク古ビ爾衣服ノ如ク之ヲ更フレバ彼等ハ易ラントス 廿八 唯爾ハ易ラズ爾ノ年ハ終ラザラン 廿九 爾ノ僕ノ子ハ生存ヘ其裔ハ爾ガ顏ノ前ニ堅ク立ントス

第百三聖詠

ダワイドノ詠

一 我ガ靈ヤ主ヲ讃揚ゲヨ我ガ中心ヤ其聖ナル名ヲ讃揚ゲヨ 二 我ガ靈ヤ主ヲ讃揚ゲヨ彼ガ悉ノ恩ヲ忘ルヽ毋レ 三 彼ハ爾ガ諸ノ不法ヲ赦シ爾ガ諸ノ疾ヲ療ス 四 爾ノ生命ヲ墓ヨリ救ヒ憐ト恵ヲ爾ニ冠ラシム 五 幸福ヲ爾ノ望ニ飽カシム爾ガ若復サルヽコト鷲ノ如シ 六 主ハ凡ソ迫害セラルヽ者ノ為ニ義ト審判トヲ行フ 七 彼ハ己ノ途ヲモイセイニ示シ己ノ行フ所ヲイズライリノ子ニ示セリ 八 主ハ宏慈ニシテ矜恤寛忍ニシテ鴻恩ナリ 九 怒テ終アリ憤ヲ永ク懐カズ 十 我ガ不法ニ因テ我等ニ行ハズ我ガ罪ニ因テ我等ニ報イズ 十一 天ノ地ヨリ高キガ如ク彼ヲ畏ルヽ者ニ於ル主ノ憐ハ大ナリ 十二 東ノ西ヨリ遠キガ如ク主ハ我ガ不法ヲ我等ヨリ遠ザケリ 十三 父ガ其子ヲ憐ムガ如ク主ハ之ヲ畏ルヽ者ヲ憐ム 十四 蓋彼ハ我ガ何ヨリシテ造ラレシヲ知リ我等ノ塵ナルヲ記

念ユ　十五人ノ日ハ草ノ如ク其榮ルコト田ノ華ノ如シ　十六風之ニ過レバ無ニ歸シ其有リシ處モ亦之ヲ識ラズ　十七唯主ノ憐ハ之ヲ畏ルヽ者ニ世ヨリ世ニ至リ　十八彼ノ義ハ其約ヲ守リ其誡ヲ懷フテ之ヲ行フノ子々孫々ニ及バン　十九主ハ其寶座ヲ天ニ建テ其國ハ萬物ヲ統治ム　廿主ノ諸ノ神使能力ヲ具ヘ其聲ニ遵テ其言ヲ行フ者ヤ主ヲ讃揚ゲヨ　廿一主ノ悉ノ軍其旨ヲ行フ役者ヤ主ヲ讃揚ゲヨ　廿二凡ソ主ノ造ル所ノ者ヤ其一切治ル處ニ於テ主ヲ讃揚ゲヨ我ガ靈ヤ主ヲ讃揚ゲヨ

光榮讃詞

第百三聖詠

（ダワイドノ詠世界創造ノ事ナリ）

一我ガ靈ヤ主ヲ讃揚ゲヨ主我ガ神ヤ爾ハ至テ大ナリ爾ハ光榮ト威嚴トヲ被レリ　二爾ハ光ヲ衣ルヿ袍ノ如ク天ヲ張ルヿ幔ノ如シ　三水ノ上ニ爾ノ宮ヲ建テ雲ヲ爾ノ車トナシ風ノ翼ニテ行ク　四爾ハ使者ヲ以テ風トナシ役者ヲ以テ焰トナス　五爾ハ地ヲ固キ基ニ建リ彼ハ世々ニ動カザラン　六爾淵ニテ之ヲ覆ヘルヿ衣服ノ如シ山ノ巓ニ水立ツ　七爾ノ恐嚇ニ依テ彼ハ奔リ爾ノ雷ノ聲ニ由テ速ニ去ル　八山ニ升リ淵ニ降リ爾ガ彼ノ爲ニ定メシ處ニ至ル　九爾界ヲ立テヽ之ヲ踰エザラシム反テ地ヲ覆ハザラン　十爾ハ泉ヲ淵ニ遣リ

山ノ間ニ水ハ流レ 十一 野ノ諸ノ獸ニ飲マシメ野ノ驢ハ其渴ヲ止ム 十二 空ノ鳥ハ其傍ニ棲ミ枝ノ間ヨリ聲ヲ發ス 十三 爾ハ最高ヨリ山ヲ潤シ地ハ爾ノ造ル果ニテ饜足レリ 十四 爾ハ草ヲ獸ノ爲ニ生ジ野菜ヲ人ノ需ニ生ゼシメテ地ヨリ食物ヲ出サシム 十五 酒ハ人ノ心ヲ樂マシ膏ハ其面ヲ澤シ餅ハ人ノ心ヲ養フ 十六 主ノ樹其植附ケシリワンノ栢香木ハ饜足レリ 十七 鳥ハ其上ニ巢ヲ造ル松ハ鶴ノ棲處タリ 十八 高キ山ハ鹿ノ爲磐石ハ兎ノ爲ニ避所タリ 十九 主ハ月ヲ造リテ時ヲ定メ日ハ其入ルヲ知ル 廿 爾暗ヲ布ケバ則夜アリ彼ノ時林ノ獸悉ク出デ廻ル 廿一 獅ハ獲物ノ爲ニ吼テ其食物ヲ神ニ乞フ 廿二 日

出レバ彼等集リテ己ノ穴ニ隱伏ス 廿三 人ハ其務ノ爲ニ出デ働キテ暮ニ至ル 廿四 主ヤ爾ノ工業ハ何ゾ多キヤ皆智慧ヲ以テ作レリ地ハ爾ノ造物ニテ滿サレタリ 廿五 夫ノ大ニシテ廣キ海彼處ニハ無數ノ動物大小ノ生物アリ 廿六 彼處ニハ舟通ヒ彼處ニハ彼ノ大魚アリ爾造リテ其中ニ游バシム 廿七 彼等ハ皆爾ヨリ時ニ隨テ食物ヲ予フルヲ待ツ 廿八 彼等ニ予フレバ受ケ爾ノ手ヲ開ケバ賜ニ饜カサレ 廿九 爾ノ顏ヲ隱クセバ懼レ彼等ノ氣ヲ取上グレバ死シテ塵ニ歸ル 卅 爾ノ氣ヲ施セバ造ラレ爾ハ又地ノ面ヲ新ニス 卅一 願ハ光榮ハ世々ニ主ニ在ラン願ハ主ハ己ノ造リシ者ノ爲ニ樂マン 卅二 彼地ヲ觀

レバ地震ヒ山ニ觸レバ煙立ツ　卅三我生ケル中主ニ歌ヒ世ヲ
終ルマデ我ガ神ニ歌ハン　卅四願ハ我ガ歌ハ彼ニ悦バレン我
主ノ爲ニ樂マン　卅五願ハ罪人等ハ地ヨリ消エ不法ノ者ハ存
スルナケン我ガ靈ヤ主ヲ讚揚ゲヨ

光榮讚詞

第百四聖詠

一主ヲ讚榮セヨ其名ヲ呼ベヨ諸民ノ中ニ其所爲ヲ宣ベヨ
二彼ニ歌ヒ彼ニ歌ヘヨ其悉ノ奇跡ヲ傳ヘヨ　三其聖ナル名
ヲ以テ誇レヨ主ヲ尋ル者ノ心ハ樂ムベシ　四主ト其力ヲ尋
ネ常ニ其顏ヲ尋ネヨ　五其行ヒシ奇跡ト其休徵ト其口ノ裁

定ヲ記憶セヨ　六爾等アウラアムノ裔ハ其僕ナリイヤコフ
ノ子ハ其選ビシ者ナリ　七彼ハ主我等ノ神ナリ其裁定ハ全
地ニアリ　八彼永ク其約ヲ記憶ス即千代ニ戒メ　九アウラア
ムニ命ゼシ言トイサアクニ予ヘシ誓ナリ　十彼亦之ヲ立テ
ヽイヤコフノ爲ニ法トナシイズライリノ爲ニ永遠ノ約ト
ナシテ云ヘリ　十一我爾ニハナアンノ地ヲ與ヘテ爾ガ業ノ分
トナサン　十二彼等ノ數ハ尚少ク甚少ナクシテ彼等ガ其地ニ
旅ヲナシ「十三此民ヨリ彼民ニ移リ此國ヨリ他ノ族ニ移レル
トキ　十四主ハ人ニ彼等ヲ侵スヲ許サズ彼等ノ爲メ諸王ニ禁ジ
テ云ヘリ　十五我ガ膏ツケヲレシ者ニ觸ルヽ毋レ我ガ預言者

ニ悪ヲナス毋レト 十六 彼又饑饉ヲ召シテ地ニ降シ穀類ノ莖
ヲ悉ク絶ヤセリ 十七 彼等ノ前ニ人ヲ遣シイオシフ賣ラレテ
僕トナレリ 十八 桎ヲ以テ其足ヲ緊メ其靈ハ鐵ニ入リ 十九 主ガ
言ノ驗ヲ得ルヲ俟ツ主ノ言彼ヲ試ミタリ 廿 王ハ人ヲ遣シ
テ彼ヲ釋キ諸民ノ宰ハ彼ヲ自由ニシ 廿一 彼ヲ立テ、其家ノ
宰トシ其悉ノ領地ヲ治ル者トシテ 廿二 彼ニ意ニ隨テ王ノ臣
ヲ導キ智ヲ以テ王ノ長老ヲ誨ヘシメリ 廿三 其時イズライリ
エギペトニ來リイヤコフハムノ地ニ徙レリ 廿四 神ハ其民ヲ
甚殖ヤシ彼ヲ其敵ヨリ强カラシメ 廿五 敵ノ心ニ其民ヲ疾ミ
悪謀ヲ以テ其諸僕ヲ待タシメ 廿六 其僕モイセイ其選ビシア

ヽロンヲ遣セリ 廿七 斯二人ハムノ地ニ在テ其休徵ノ言ト其
奇迹ヲ彼等ノ中ニ示セリ 廿八 主闇冥ヲ施シテ晦ウセリ彼等
其言ニ背カズ 廿九 彼等ノ水ヲ血ニ變ジ其魚ヲ亡セリ 卅 其地
ハ多ノ蛙ヲ生ジ其王ノ室ニモ之アリ 卅一 主言ヲ發スレバ諸〱
ノ蟲來リ蚊ハ其悉ノ境ニ至レリ 卅二 彼等ニ雨ニ代ヘテ霰ヲ
降ラシ爍ノ火ヲ其地ニ施シ 卅三 其葡萄ト其無花果ヲ擊チ樹
ヲ其境ニ折レリ 卅四 言ヲ發スレバ蝗ト螟蛉ノ來レルヿ數ヘ
難ク 卅五 其地ノ草ヲ蝕盡シ其田ノ實ヲ蝕盡セリ 卅六 主ハ其地
ノ悉ノ首生ノ者即其力ノ始ヲ擊テリ 卅七 イズライリ人ヲ導
キ金銀ヲ携ヘテ出デシメ支派ノ中病ム者ナシ 卅八 彼等ノ出

ルヲ以テエギペト喜ベリ蓋彼等ヲ懼ルヽノ懼ハ嘗テ之ニ臨メリ 卅九 主ハ雲ヲ布テ彼等ノ蓋トナシ火ヲ施シテ彼等ガ夜間ノ光トナセリ 四十 彼等願ヘバ主ハ鶉ヲ遣ハシ且天ノ糧ヲ以テ彼等ヲ飫カセリ 四一 石ヲ裂ケバ水流レ乾ケル處ニ流ル、コト河ノ如シ 四二 蓋シ彼ハ其僕アウラアムニ予ヘシ其聖ナル言ヲ記憶セリ 四三 歡ヲ以テ其民ヲ引キ出シ樂ヲ以テ其選ビシ者ヲ引キ出シ 四四 彼等ニ諸民ノ地ヲ賜ヘリ彼等ハ異邦ノ勞ヲ嗣ゲリ 四五 主ノ律ニ遵ガヒ其法ヲ守ランガ爲ナリ

光榮讚詞

第十五「カフィズマ」

第百五聖詠

アリルイヤ

一 主ヲ讚榮セヨ蓋彼ハ仁慈ニシテ其憐ハ世々ニアレバナリ 二 孰カ能ク主ノ大能ヲ言ヒ其悉ノ讚美ヲ述ベンヤ 三 審判ニ遵ヒ常ニ義ヲ守ル者ハ福ナリ 四 主ヤ爾ノ民ニ施スノ恩ヲ以テ我ヲ記憶シ爾ノ救ヲ以テ我ニ臨ミテ 五 我ニ爾ガ選ビシ者ノ福ヲ見爾ガ民ノ樂ヲ以テ樂ミ爾ノ嗣業ト偕ニ誇ラシメ給ヘ 六 我等我ガ列祖ト偕ニ罪ヲ犯シ不法ヲ行ヒ不義ヲ作セリ 七 我ガ列祖ハエギペトニ在テ爾ノ奇迹ヲ悟

ラズ爾ガ多ノ憐ヲ念ハズ海即紅ノ海ノ畔ニ叛ケリ 八 然レ
モ神ハ已ガ名ノ爲ニ彼等ヲ救ヒ其大能ヲ顯スヲ致セリ 九
彼嚴ク紅ノ海ニ命ズレバ海涸レタリ彼ハ彼等ヲ導テ淵ヲ
行カシムル乛陸ノ如ク 十 彼等ヲ惡ム者ノ手ヨリ救ヒ彼等
ヲ敵ノ手ヨリ脱ガセリ 十一 水ハ彼等ノ敵ヲ蔽ヒ其一モ遺サ
ズ 十二 是ヲ以テ彼等ハ彼ノ言ヲ信ジ彼ヲ讚美シテ歌ヘリ 十三
然レモ彼等ハ速ニ其所爲ヲ忘レ其命ヲ俟タズ 十四 慾ヲ曠野
ニ縱ニシ神ヲ荒地ニ試ミタリ 十五 彼ハ彼等ニ其求ル所ヲ賜
ヒ唯其靈ニ疫病ヲ遣セリ 十六 彼等ハ營中ニ於テモイセイト
主ノ聖者アアロンヲ猜ミ 十七 地ハ啓ケテダファンヲ呑ミアワイ
ロンノ黨ヲ蔽ロ 十八 火ハ其黨ノ中ニ燃エ焔ハ惡者ヲ燬盡セ
リ 十九 彼等ハホリウニ在テ犢ヲ造リ偶像ヲ拜ミ 廿 己ノ光榮
ヲ易ヘテ草ヲ食ム牛ノ像トナシ 廿一 神其救主大ナル事ヲ
エギペトニ 廿二 奇妙ナル乛ヲハムノ地ニ驚懼ルベキ乛ヲ紅
ノ海ニ行ヒシ者ヲ忘レタリ 廿三 神ハ彼等ヲ滅サン乛ヲ欲セ
リ惟其選ビシモイセイ彼ノ前ニ立テ隙ニ在テ其怒ヲ回シ
其彼等ヲ滅ボスヲ免レシメリ 廿四 彼等ハ曾テ慕フ所ノ地ヲ
輕ジ彼ノ言ヲ信ゼズ 廿五 其幕ノ中ニ在テ怨言ヲ吐キ主ノ聲
ヲ聽カズ 廿六 彼ハ其手ヲ彼等ニ擧ゲテ彼等ヲ曠野ニ倒シ 廿七
彼等ノ族ヲ諸民ノ中ニ顚シ彼等ヲ諸ゝノ地ニ散ズルヲ致セ

リ 廿八 彼等ハワアルフェゴルニ附キ靈ナキ者ノ祭物ヲ食ヒ 廿九
其行ヲ以テ神ヲ怒ラセタリ故ニ疫病其中ニ流行セリ 卅 フ
ネエス起テ裁判ヲ行ヘバ疫病息ム 卅一 彼ハ此ニ依テ義ト稱
セラル、ヲ得タリ世々ヲ歴テ永遠ニ迄ラン 卅二 彼等ハメリ
ワノ水ニ於テ神ヲ怒ラセモイセイ彼等ノ爲ニ難ニ遭ヘリ
卅三 蓋彼等其靈ヲ干セバ彼其口ヲ以テ罪ヲ行ヘリ 卅四 彼等ハ
主ノ彼等ニ命ゼシ所ノ諸民ヲ滅サズ 卅五 乃異邦人ト雜居シ
其行ニ傚ヒ 卅六 其彼等ノ爲ニ網トナリシ偶像ニ事ヘ 卅七 己ノ
子ト己ノ女ヲ以テ惡魔ニ獻祭シ 卅八 無辜ノ血即ハナアンノ
偶像ヲ祭レル己ノ子ト己ノ女ノ血ヲ流シ地ハ其血ニテ汚

サレタリ 卅九 彼等ハ己ノ所爲ニテ自汚シ己ノ行ニテ淫行セ
リ 四十 是ヲ以テ主ノ怒ハ其民ニ燃エ主ハ其嗣業ヲ厭ヒ 四一 彼
等ヲ異邦人ノ手ニ付セリ彼等ヲ惡ム者ハ彼等ヲ制シ 四二 彼
等ノ敵ハ彼等ヲ迫害シ彼等ハ其手ノ下ニ降レリ 四三 主ハ屢
〻彼等ヲ釋ケリ唯彼等ハ己ノ剛愎ヲ以テ彼テ怒ラセ己ガ
不法ノ爲ニ悔ヲ蒙レリ 四四 然レ𪜈神ハ彼等ノ呼ブヲ聽クトキ
彼等ノ憂ヲ顧ミ 四五 其彼等ト結ビシ約ヲ記憶シ其憐ノ多キ
ニ依テ自悔イ 四六 凡ソ彼等ヲ虜ニセシ者ニ彼等ヲ憐ムノ情
ヲ起サシメリ 四七 主我等ノ神ヤ我等ヲ救ヒ我等ヲ諸民ノ中
ヨリ集メテ爾ノ聖名ヲ讚榮シ爾ノ光榮ヲ誇ラシメ給ヘ 四八

主イズライリノ神ハ崇讃メラレテ世ヨリ世ニ迄ラン衆民云フベシ「アミン」「アリルイヤ」

光榮讃詞

第百六聖詠

(アリルイヤ)

一主ヲ讃榮セヨ蓋彼ハ仁慈ニシテ其憐ハ世々ニアレバナリ 二主ニ救ハレシ者ハ此ノ如ク云フベシ即主ガ敵ノ手ヨリ救ヒ 三各地ヨリ集メ東ヨリ西ヨリ北ヨリ海ヨリ集メシ者ナリ 四彼等ハ曠野ニ人ナキ途ニ徘徊ヒ人ノ住ヘル城邑ニ遇ハズ 五飢且渇キ彼等ノ靈ハ其内ニ消エントセリ 六然𪜈彼等其憂ノ中主ニ呼ベバ主ハ彼等ヲ其患難ヨリ脫シ 七彼等ヲ直キ途ニ導テ人ノ住ヘル城邑ニ往カシメリ 八主ヲ其憐ト其人ノ子ノ爲ニ行ヒシ奇迹ニ緣テ讃榮スベシ 九蓋彼ハ渴ケル靈ヲ滿タシ饑ウル靈ヲ善ニ飽カセリ 十彼等ハ闇冥ト死ノ蔭ニ坐シ憂ト鐵ニ縛ヲレタリ 十一蓋神ノ言ニ從ハズ至上者ノ旨ヲ輕ゼリ 十二彼ハ苦勞ヲ以テ彼等ノ心ヲ降セリ彼等ハ蹶テ助クル者ナシ 十三然𪜈彼等其憂ノ中主ニ呼ベバ主ハ彼等ヲ其患難ヨリ救ヒ 十四彼等ヲ闇冥ト死ノ蔭ヨリ引出シ其縛ヲ截テリ 十五主ヲ其憐ト其人ノ子ノ爲ニ行ヒシ奇迹ニ緣テ讃榮スベシ 十六蓋彼ハ銅ノ門ヲ破リ鐵ノ

柱ヲ折ケリ 十七 不智者ハ其不法ノ途ト其不義ノ爲ニ苦メリ
十八 彼等ノ靈ハ諸ノ食ヲ厭ヒ彼等ハ死ノ門ニ近ヅケリ 十九 然
レモ彼等其憂ノ中主ニ呼ベバ主ハ彼等ヲ其患難ヨリ救ヒ
廿 其言ヲ遣ハシテ彼等ヲ療シ彼等ヲ其墓ヨリ脱セリ 廿一 主
ヲ其憐ト其人ノ子ノ爲ニ行ヒシ奇跡ニ緣テ讚榮スベシ 廿二
讚美ノ祭ヲ彼レニ獻ジ歌ヲ以ッテ其行フ所ヲ宣ブベシ 廿三
舟ニ乘テ海ニ浮ビ事ヲ大水ニ行フ者ハ 廿四 主ノ所爲ヲ見其
奇跡ヲ淵ニ見ル 廿五 彼言ヘバ暴風起リテ高ク其波ヲ騰グ 廿六
天ニ升リ淵ニ降リ彼等ノ靈ハ患難ニ因テ消エントシ 廿七 彼
等ハ旋轉ビ動搖ルヿ酔ヘル者ノ如シ其悉ノ智慧ハ消ユ

廿八 然レモ彼等其憂ノ中主ニ呼ベバ主ハ彼等ヲ其患難ヨリ
引出セリ 廿九 彼ハ狂風ヲ變シテ平穩トナシ波ハ平ナリ 卅 彼
等其靜ナルヲ樂ム主ハ彼等ヲ携ヘテ其望ム所ノ埠ニ至ル
卅一 主ヲ其憐ト其人ノ子ノ爲ニ行ヒシ奇跡ニ緣テ讚榮スベ
シ 卅二 彼ヲ民ノ會ニ尊崇シ彼ヲ長老ノ會ニ讚美スベシ 卅三 彼
河ヲ變シテ野トナシ泉ヲ變シテ槁壞トナシ 卅四 沃土ヲ變シ
テ斥鹵トナス此ニ住ム者ノ罪惡ニヨル 卅五 彼ハ野ヲ變シテ
池トナシ乾土ヲ變シテ泉トナシ 卅六 餧ル者ヲ彼處ニ居ラシ
ム彼等ハ住ムガ爲ニ城邑ヲ建テ 卅七 田ニ種ヲ蒔キ葡萄園ヲ
作リ多ク其實ヲ得ル 卅八 主ハ彼等ニ福ヲ降シ大ニ彼等ヲ增

加セシメ彼等ノ家畜ヲ減ラサズ 卅九 迫害ト苦難ト憂患ニヨ
リ彼等減ゼラレテ衰ヘタリ 四十 主ハ辱ヲ牧伯ニ被ラシ彼等
ガ路ナキノ野ニ徘徊スニ任セ 四一 貧キ者ヲ患難ヨリ引出シ
其族ヲ増スヿ羊ノ群ノ如シ 四二 義人ハ之ヲ見テ悦ビ凡ノ悪
ハ其口ヲ塞グ 四三 智ナル者ハ此ヲ監ミテ主ノ憐ヲ悟ラン

光榮讃詞

第百七聖詠

一 ダワィドノ詠ナリ歌ナリ
二 我ガ心備レリ神ヤ我ガ心備レリ我我ガ光榮ヲ以テ歌ヒ
歌ハン 三 我ガ琴瑟興キヨ我夙ク興キントス 四 主ヤ我爾ヲ

諸民ノ中ニ讃榮シ爾ヲ諸族ノ中ニ讃頌セン 五 蓋爾ノ憐ハ
天ヨリ高ク爾ノ眞實ハ雲ニ戻ル 六 神ヤ願ハ爾ハ天ノ上ニ
擧ゲラレ爾ノ光榮ハ全地ヲ蔽ヒ 七 爾ノ愛スル者ニ援ヲ獲
セシメ給ヘ爾ガ右ノ手ニテ救フテ我ニ聽キ給ヘ 八 神ハ其
聖所ニ於テ曰ヘリ我勝タンシヘムヲ分チソクホフノ谷ヲ
量ラン 九 ガラアドハ我ニ屬シマナシヤハ我ニ屬シエフレ
ムハ我ガ首ノ防固イウダハ我ノ權柄ナリ 十 モアフハ我ノ
盤ナリエドムニ我ガ鞾ヲ舒ベントスフィリスティヤノ地ニ於
テ凱ヲ擧ゲン 十一 孰カ我ヲ引テ堅固ナル城邑ニ入レン孰カ
我ヲ導テエドムニ至ラシ 十二 神ヤ豈ニ爾ニ非ズヤ神ヤ我等

ヲ棄テ、我ガ軍ト共ニ出デザル者ヤ 十三 祈ル狹難ニ於テ我
等ニ助ヲ畀ヘ給ヘ、人ノ護佑ハ虛シケレバナリ 十四 神ト偕ニ
シテ我等力ヲ顯ハサン、彼ハ我ガ敵ヲ降サン

第百八聖詠

ダワィドノ詠、伶長ニ之ヲ歌ハシム

一 吾ガ讚美ノ神ヤ默ス毋レ 二 蓋凶惡ノ口詭譎ノ口ハ我ニ
向フテ啓キ詐ノ舌ヲ以テ我ト言ヒ 三 怨言ヲ以テ我ヲ環リ
故ナクシテ我ニ向フテ武器ヲ備フ 四 彼等ハ我ガ愛ニ易ヘ
テ我ガ敵トナレリ、我即祈ル 五 彼等ハ惡ヲ以テ我ガ善ニ報
イ怨ヲ以テ我ガ愛ニ報ユ 六 惡者ヲ其上ニ立テヨ、惡魔ハ其

右ニ立ツベシ 七 願ハ彼裁判ヲ受ルキ其罪定メラレン、願ハ
彼ノ祈禱ハ罪トナラン 八 願ハ其日ハ短ク其職位ハ他人之
ヲ受ケン 九 願ハ其子ハ孤トナリ其妻ハ嫠トナラン 十 願ハ
其子ハ流離シテ乞ヒ食ヲ其廢址ヨリ覔メン 十一 願ハ債主ハ
其有ツ所ヲ悉ク奪ヒ他人ハ其劬勞スル所ヲ掠メン 十二 願ハ
彼ヲ憐ム者ナク其孤ニ恩ヲ施ス者ナケン 十三 願ハ其裔ハ絕
エ彼等ノ名ハ次ノ代ニ銷サレン 十四 願ハ其列祖ノ不法ハ主
ノ前ニ記憶セラレ其母ノ罪ハ銷サレザラン 十五 願ハ其罪惡
ハ恒ニ主ノ前ニアリ主ハ其記憶ヲ地ニ滅サン 十六 彼憐ヲ施
スヲ憶ハズ乃貧シキ者ト乏キ者ト心ヲ傷ムル者ヲ窘迫シ

テ之ヲ殺サシトセシニヨル　十七彼ハ詛ヲ好メリ故ニ詛彼ニ
臨マン彼ハ降福ヲ欲セズ故ニ降福彼ニ遠ザカラン　十八願ハ
彼ハ詛ヲ衣ノ如ク衣ン願ハ詛ハ水ノ如ク其腹ニ入リ油ノ
如ク其骨ニ入ラン　十九願ハ詛ハ彼ノ爲ニ其衣ル所ノ衣ノ如
クナリ其恒ニ束ル所ノ帶ノ如クナラン　廿我ガ敵ト惡言ヲ
以テ我ガ靈ヲ攻ル者ニハ主ノ報此ノ如シ　廿一主ヤ主ヤ我ニ
ハ爾ノ名ニ因テ行ヒ給ヘ爾ノ憐ハ仁慈ナレバナリ我ヲ救
ヒ給ヘ　廿二蓋我貧クシテ乏シ我ガ心ハ我ノ中ニ傷ケリ　廿三我
消ルヿ傾ケル晷ノ如ク我逐ハルヽヿ蝗ノ如シ　廿四我ガ膝ハ
齋ニ依テ弱リ我ガ軀ハ肥タルヲ失ヘリ　廿五我彼等ノ嘲トナ

リ彼等我ヲ見テ其首ヲ搖ス　廿六主我ガ神ヤ我ヲ助ケ給ヘ爾
ノ憐ニ依テ我ヲ救フテ　廿七彼等ニ此レ爾ノ手爾主ノ行フ所
ナルヲ識ラシメ給ヘ　廿八彼等ハ詛フ惟爾福ヲ降セ彼等ハ興
ル願ハ彼等辱メラレ惟爾ノ僕ハ喜バン　廿九願ハ我ガ敵ハ辱
ヲ衣愧ヲ以テ衣ノ如ク蔽レン　卅我我ガ口ヲ以テ高ク主ヲ
讚榮シ彼ヲ衆中ニ讚美セン　卅一蓋彼ハ貧キ者ノ右ニ立チテ
彼ヲ其靈ヲ判ク者ヨリ救ハントス

光榮讚詞

第十六「カフィズマ」

第百九聖詠

爾ガ黎明ノ前云々ハ七十人ノ翻譯我黎明ノ前ニ腹ヨリ爾ヲ生メリニ作ル

ダワイドノ詠

一 主我主ニ云ヘリ、爾我ガ右ニ坐シ、我ガ爾ノ敵ヲ以テ爾ノ
足凳トナスヲ待テ。 二 主ハシオンヨリ爾ガ能力ノ杖ヲ遣サ
ン、爾ハ爾ガ敵ノ中ニ主タル可シ。 三 爾ガ能力ノ顯ハルヽ日
爾ノ民ハ聖ナル美麗ヲ備ヘリ、爾ガ黎明ノ前ニ腹ヨリ生ル
ヽハ露ノ如シ。 四 主ハ誓テ悔イズ、爾メルヒセデクノ班ニ循
フテ司祭トナリ永遠ニ迄ラン。 五 主ハ爾ノ右ニアリ、彼其怒
ノ日諸王ヲ擊チ、 六 審判ヲ諸民ニ行ヒ、尸ヲ地ニ滿タシ、首ヲ
廣地ニ毀ラン。 七 彼ハ道旁ノ流ニ飮マン、故ニ首ヲ翹ゲン。

第百十聖詠

アリルイヤ

一 主ヤ我心ヲ全ウシテ爾ヲ義者ノ集議ノ中及會中ニ讚榮
セン。 二 主ノ所爲ハ大ニシテ凡ソ之ヲ愛スル者ノ爲ニ慕フ
ベシ。 三 其所爲ハ光榮ト美麗ナリ、其義ハ永ク存ス。 四 彼ハ其
奇迹ヲ忘ル可カラザル者トセリ、主ハ慈憐ニシテ鴻恩ナリ。
五 彼已ヲ畏ルヽ者ニ糧ヲ予ヘ、永ク其約ヲ記念ス。 六 彼其所
爲ノ力ヲ其民ニ顯ハシテ之ニ異邦人ノ嗣業ヲ與フルヲ致
セリ。 七 其手ノ所爲ハ眞實ト義ナリ、其悉ノ誡ハ正ク。 八 世々
ニ堅固ニシテ眞實ト義ヲ基トセリ。 九 彼ハ其民ニ救ヲ遣シ
其約ヲ永遠ニ立テリ、其名ハ聖ニシテ畏ルベシ。 十 智慧ノ始

ハ主ヲ畏ルヽノ畏ナリ其誠ヲ守ル者ハ皆明智ナリ其讚美
ハ永ク存ス

第百十一聖詠

アリルイヤ

一 神ヲ畏レ其誠ヲ極テ愛スル人ハ福ナリ 二 其裔ハ地ニ力
アリ義ナル者ノ族ハ福ヲ得ン 三 饒ト富ハ其家ニアリ其義
ハ永ク存ス 四 光ハ義者ノ爲ニ闇冥ニ出ヅ是仁慈慈憐ニシ
テ義ナル者ナリ 五 善人ハ憐ヲ施シ又借予フ彼ハ裁判ノトキ
其言ノ確ナルヲ顯ハサン 六 彼ハ世々撼搖カザラン義人ハ
永ク記憶セラレ 七 惡評ヲ懼レザラン其心主ヲ恃ミテ堅シ

八 其心ハ堅固ナリ彼其敵ヲ見ルトキ懼レザラン 九 彼ハ散ジ
テ貧者ニ施ス其義ハ永ク存シ其角ハ榮ヲ以テ擧ラン 十 惡
者之ヲ見テ憂ヒ切齒シテ消エン惡者ノ望ハ滅ビン

光榮讚詞

第百十二聖詠

アリルイヤ

一 主ノ僕ヤ讚揚ゲヨ主ノ名ヲ讚揚ゲヨ 二 願ハ主ノ名ハ崇
讚メラレテ今ヨリ世々ニ至ラン 三 願ハ日ノ出ル處ヨリ日
ノ入ル處マデ主ノ名讚榮セラレン 四 主ハ萬民ヨリ高ク其
光榮ハ天ニ踰ユ 五 孰カ主我ガ神ニ似ンヤ彼ハ高ニ居リ 六

俯シテ天ト地ヲ臨ミ　七塵ヨリ貧シキ者ヲ援ケ泥ヨリ乏シ
キ者ヲ擧ゲテ　八之ヲ牧伯即其ノ民ノ牧伯ト共ニ坐セシメ
九妊マザル婦ヲ子ノ爲メニ歡コブノ母トシテ室ニ居ラシ
ム

第百十三聖詠

（アリルイヤ）

一イズライリエギペトヨリ出デイヤコフノ家異邦民ヨリ
出デシ時ニ　二イウダハ神ノ聖所トナリイズライリハ其領地
トナレリ　三海ハ見テ走リイオルダンハ退ケリ　四山ハ牡羊
ノ如ク躍リ邱ハ羔ノ如ク躍レリ　五海ヤ爾何事ニ遭フテ走

リシヤイオルダンヤ爾何事ニ遭フテ退キシヤ　六山ヤ爾等
何爲レゾ牡羊ノ如ク躍ル邱ヤ爾等何爲レゾ羔ノ如ク躍
ルヤ　七地ヤ主ノ顏ノ前イヤコフノ神ノ顏ノ前ニ震ヘヨ　八
彼磐ヲ變ジテ池トナシ石ヲ變ジテ泉トナス　九主ヤ我等ニ
非ズ我等ニ非ズ乃爾ノ名ニ光榮ヲ歸セヨ爾ノ憐ニ縁リ爾
ノ眞實ニ縁ル　十異邦人何爲レゾ彼等ノ神ハ何ニ在ルト云
フヤ　十一我等ノ神ハ天ニ在リ地ニ在リ凡ソ欲スル所ヲ行フ
十二彼等ノ偶像ハ乃銀乃金人ノ手ノ造ル所ナリ　十三彼口アリ
テ言ハズ目アリテ見ズ　十四耳アリテ聽カズ鼻アリテ嗅ガス
十五手アリテ捫ラズ足アリテ行カズ其喉ハ聲ヲ出サズ　十六願

ハ之ヲ造ル者ト凡ソ之ヲ恃ム者ハ是ト相似ン 十七 イズライ
リノ家ヤ主ヲ恃メヨ彼ハ我ガ助ト盾ナリ 十八 アロンノ家
ヤ主ヲ恃メヨ彼ハ我ガ助ト盾ナリ 十九 主ヲ畏ル丶者ヤ主ヲ
恃メヨ彼ハ我ガ助ト盾ナリ 廿 主ハ我等ヲ記念シ我等ニ福
ヲ降シイズライリノ家ニ福ヲ降シアロンノ家ニ福ヲ降
シ 廿一 主ヲ畏ル丶者ニ小大ヲ別タズシテ福ヲ降ス 廿二 願ハ主
ハ爾等ニ増加シ爾等ト爾等ノ子孫ニ増加セン 廿三 爾等ハ天
地ヲ造リシ主ニ降福セラレタリ 廿四 天ハ主ノ天ナリ地ハ彼
之ヲ人ノ子ニ與ヘリ 廿五 主ヲ讚揚グルハ死者ニ非ズ凡ソ墓
ニ降ル者ニ非ズ 廿六 乃我等生ケル者ハ主ヲ崇讚メテ今ヨリ

世々ニ迄ラン

第百十四聖詠

(アリルイヤ)

一 我喜ブ主ノ我ガ聲我ガ祈ヲ聽キ 二 其耳ヲ我ニ傾ケシニ
ヨル故ニ我在世ノ日彼ヲ呼バン 三 死ノ病ハ我ヲ圍ミ地獄
ノ苦ハ我ニ臨ミ我辛苦艱難ニ遭ヘリ 四 此時我主ノ名ヲ呼
デ云ヘリ主ヤ我ガ靈ヲ免レシメ給ヘ 五 主ハ仁慈ニシテ義
ナリ我ガ神ハ慈憐ナリ 六 主ハ朴直ナル者ヲ護ル我弱リシ
ニ彼我ヲ助ケリ 七 我ガ靈ヤ爾ノ平安ニ歸レヨ蓋主ハ爾ニ
恩ヲ施セリ 八 主ヤ爾我ガ靈ヲ死ヨリ我ガ目ヲ涙ヨリ我ガ

足ヲ蹶ヨリ免レシメ給ヘリ　九　我生ケル者ノ地ニ在テ主ノ
顔ノ前ニ行カン

光榮讚詞

第百十五聖詠

（アリルイヤ）

一　我信ズ故ニ言ヘリ我孔傷メリ　二　我惑ヒシ時謂ヘリ人皆
虚シト　三　我何ヲ以テ主ノ我ニ施セシ悉ノ恩ニ報イン　四　我
救ノ爵ヲ受ケテ主ノ名ヲ籲バン　五　我ガ誓ヲ主ニ其衆民ノ
前ニ償ハン　六　聖人ノ死ハ主ノ目ノ前ニ貴シ　七　嗚呼主ヤ我
ハ爾ノ僕我ハ爾ノ僕爾ノ婢ノ子ナリ爾ハ我ノ縛ヲ釋ケリ

八　我讚揚ノ祭ヲ爾ニ獻ゲ主ノ名ヲ籲バントス　九　我ガ誓ヲ
主ニ其衆民ノ前ニ　十　主ノ宮ノ庭ニイエルサリムヤ爾ノ中
ニ償ハン

第百十六聖詠

（アリルイヤ）

一　萬民ヤ主ヲ讚揚ゲヨ萬族ヤ彼ヲ崇讚メヨ　二　蓋彼ガ我等
ニ施ス憐ハ大ナリ主ノ眞實ハ永ク存ス

第百十七聖詠

（アリルイヤ）

一　主ヲ讚榮セヨ蓋彼ハ仁慈ニシテ其憐ハ世々ニアレバナ

リニイズライリノ家今言フベシ彼ハ仁慈ナリ其憐ハ世々、ニアレバナリ 三 アーロンノ家今言フベシ彼ハ仁慈ナリ其憐ハ世々ニアレバナリ 四 主ヲ畏ル者今言フベシ彼ハ仁慈ナリ其憐ハ世々ニアレバナリ 五 我狹ヨリ主ニ籲ブニ主ハ我ニ聆テ我ヲ廣キ處ニ引出セリ 六 主ハ我ヲ護ル我懼レズ人何ヲカ我ニ為サンヤ 七 主ハ我ヲ助クル者ナリ我我ガ敵ヲ見ントス 八 主ヲ恃ムハ人ヲ恃ムヨリ善ナリ 九 主ヲ恃ムハ牧伯ヲ恃ムヨリ善ナリ 十 萬民我ヲ圍メ𪜈我主ノ名ヲ以テ之ヲ敗レリ 十一 彼等我ヲ圍ミ我ヲ環レ𪜈我主ノ名ヲ以テ之ヲ敗レリ 十二 彼等ノ我ヲ圍ムハ蜂ノ其巢ヲ圍ムガ如ク其消ルハ棘ノ火ノ如シ我主ノ名ヲ以テ之ヲ敗レリ 十三 彼等強ク我ヲ推シテ我ヲ仆サント欲スレ𪜈主ハ我ヲ扶ケリ 十四 主ハ我ガ力ト我ガ歌ナリ彼ハ我ガ救トナレリ 十五 義人ノ住所ニ歡ト救ノ聲アリテ曰フ主ノ右ノ手ハ力ヲ顯ハス 十六 主ノ右ノ手ハ高シ主ノ右ノ手ハ力ヲ顯ハスト 十七 我死セズ猶生キテ主ノ行フ所ヲ傳ヘン 十八 主ハ嚴ク我ヲ罰スレ𪜈我ヲ死ニ付サズ 十九 我ガ為ニ義ノ門ヲ闢ケヨ我之ニ入テ主ヲ讃榮セン 二十 是主ノ門ナリ義人之ニ入ラントス 廿一 我爾ヲ讃榮ス蓋爾ハ我ニ聽キ我ノ救トナレリ 廿二 工師ガ棄テシ所ノ石ハ屋隅ノ首石トナレリ 廿三 此主ノナス所ニシテ我等ノ目

ニ奇異ナリトス 廿四 主ハ此日ヲ作レリ我等之ヲ以テ歡ビ樂マン 廿五 嗚呼、主ヤ救ヒ給ヘ、嗚呼、主ヤ助ケ給ヘ 廿六 主ノ名ニ依テ來ル者ハ崇讚ラル我等主ノ家ヨリ爾等ニ降福ス 廿七 主ハ神ナリ我等ヲ照セリ繩ヲ以テ牲ヲ繫ギ牽テ祭壇ノ角ニ至レヨ 廿八 爾ハ我ガ神ナリ我爾ヲ讚榮セン爾ハ我ガ神ナリ我爾ヲ崇讚メン我爾ヲ讚榮セン蓋爾ハ我ニ聽キ我ノ救トナレリ 廿九 主ヲ讚榮セヨ蓋彼ハ仁慈ニシテ其憐ハ世々ニアレバナリ

第十七「カフィズマ」

光榮讚詞 ・

第百十八聖詠

（アリルイヤ）

一 道ニ玷ナクシテ主ノ法律ヲ行フ者ハ福ナリ 二 彼ノ啓示ヲ守リ心ヲ盡シテ彼ヲ尋ル者ハ福ナリ 三 彼等ハ不法ヲ作サズシテ彼ノ道ヲ行ク 四 爾ハ爾ノ命ヲ固ク守ルヲ命ゼリ 五 嗚乎、望ラクハ我ガ道ハ爾ノ律ヲ守ルニ向ハン 六 其時我爾ガ悉ノ誡ヲ視テ羞ヲ承ケザラン 七 我爾ガ義ノ定ヲ學ビ心ノ直ヲ以テ爾ヲ讚榮セン 八 我爾ノ律ヲ守ラン我ヲ全ク棄ル毋レ 九 少者ハ何ヲ以テ己ノ道ヲ潔ク守ルヤ爾ノ言ニ循フテ己ヲ脩ルヲ以ス 十 我心ヲ盡シテ爾ヲ尋ヌ我ニ爾ノ

誠ヲ避クルヲ容ス毋レ 十一我爾ノ前ニ罪ヲ犯サヾランガ爲
爾ノ言ヲ我心ニ藏メリ 十二主ヤ爾ハ崇讚メラル爾ノ律ヲ我
ニ訓ヘ給ヘ 十三我我ガ口ヲ以テ爾ガ口ノ悉ノ定ヲ傳ヘリ 十四
我爾ガ啓示ノ道ヲ悅ブコト諸ノ貨財ヲ悅ブガ如シ 十五我爾ノ
誡ヲ考ヘ爾ノ路ヲ仰グ 十六我爾ノ律ヲ以テ慰トシ爾ノ言ヲ
忘レズ 十七爾ノ僕ニ憐ヲ顯シ給ヘ則我生キテ爾ノ言ヲ守ラ
ン 十八我ガ目ヲ啓キ給ヘ則我爾ガ法律ノ奇蹟ヲ觀ン 十九我地
ニ在テ旅客ナリ爾ノ誡ヲ我ニ隱ス毋レ 二十我ガ靈恒ニ爾ノ
定ヲ望ミテ憊レタリ 廿一爾ハ誇ル者詛ハレシ者爾ノ誡ニ逆
フ者ヲ抑ヘリ 廿二侮ト辱ヲ我ヨリ除キ給ヘ我爾ノ啓示ヲ守

レバナリ 廿三牧伯ハ坐シテ我ヲ謀ル惟爾ノ僕ハ爾ノ律ヲ考
フ 廿四爾ノ啓示ハ我ノ慰ナリ爾ノ律ハ我ノ謀者ナリ 廿五我ガ
靈塵ニ投ゲラレタリ爾ノ言ニ循テ我ヲ生カシ給ヘ 廿六我我
ガ道ヲ陳ルニ爾我ニ聞ケリ爾ノ律ヲ我ニ訓ヘ給ヘ 廿七我ニ
爾ガ命ノ道ヲ悟ラシメ給ヘ則我爾ノ奇蹟ヲ考ヘン 廿八我ガ
靈ハ憂ニ依テ銷ユ爾ノ言ニ循テ我ヲ固メ給ヘ 廿九詭詐ノ道
ヲ我ヨリ遠ザケ爾ノ法律ヲ我ニ與ヘ給ヘ 卅我眞實ノ道ヲ
擇ビ爾ノ定ヲ我ガ前ニ置ケリ 卅一主ヤ我爾ノ啓示ヲ戀ヘリ
我ニ羞ヲ承ケシムル毋レ 卅二爾我ガ心ヲ廣ル時我爾ガ誡ノ
道ヲ趨ラン 卅三主ヤ爾ガ律ノ道ヲ我ニ示シ給ヘ則我終ニ至

ルマデ之ニ依ラン 卅四 我ヲ悟ラシメ給ヘ則我爾ノ法律ヲ守
リ心ヲ盡シテ之ヲ守ラン 卅五 我ヲ爾ガ誡ノ道ニ立テヨ蓋我
之ヲ望メリ 卅六 我ガ心ヲ爾ノ啓示ニ傾カシメ給ヘ貪ニ傾カ
シムル毋レ 卅七 我ガ目ニ虚ヲ見ザラシメヨ我ヲ爾ノ道ニ生
カシ給ヘ 卅八 爾ノ言ヲ爾ノ僕ニ固メヨ其爾ノ前ニ愼ニヨル
卅九 我ガ懼ルヽノ侮ヲ除キ給ヘ爾ノ定ハ仁慈ナレバナリ 四十
視ヨ我爾ノ命ヲ慕ヘリ爾ノ義ヲ以テ我ヲ生カシ給ヘ 四一 主
ヤ願ハ爾ノ憐ハ我ニ至リ爾ノ言ニ循フテ爾ノ救ハ我ニ至
ン 四二 則我ハ我ヲ侮ル者ニ對ヘン我爾ノ言ヲ恃メバナリ 四三
我ガ口ヨリ眞實ノ言ヲ全ク離ス毋レ我爾ノ定ヲ恃メバナ

リ 四四 則我常ニ爾ノ法律ヲ守リテ世々ニ至ラン 四五 我自由ニ
シテ往カン我爾ノ命ヲ求ムレバナリ 四六 我列王ノ前ニ爾ノ
啓示ヲ言フテ耻ヲ承ケザラン 四七 我愛スル所ノ爾ノ誡ヲ以
テ慰トセン 四八 我ガ手ヲ愛スル所ノ爾ノ誡ニ伸ベテ爾ノ律
ヲ考ヘン 四九 爾ノ僕ニ賜ヒシ言ヲ記憶セヨ爾我ニ之ヲ恃ム
ヲ命ゼシニヨル 五十 爾ガ言ノ我ヲ生スハ我ガ患難ノ時ニ於
テ我ガ慰トナレリ 五一 誇ル者ハ大ク我ヲ譏レリ然レ𪜈我爾
ノ法律ヲ離レズ 五二 主ヤ我爾ガ古世ヨリノ定ヲ記憶シテ自
慰メタリ 五三 我爾ノ法律ヲ棄ルノ悪人ヲ見テ驚懼ル 五四 我ガ
旅スル處ニ於テ爾ノ律ハ我ノ歌トナレリ 五五 主ヤ我夜中爾

ノ名ヲ記憶シ爾ノ法律ヲ守レリ　五六是我ガ物トナレリ我爾ノ命ヲ守ルニ緣ル　五七我謂ヘリ主ヤ爾ノ言ヲ守ルハ我ノ分ナリ　五八我心ヲ盡シテ爾ニ禱レリ爾ノ言ニ循フテ我ヲ憐ミ給ヘ　五九我我ガ道ヲ考ヘ我ガ足ヲ爾ノ啓示ニ旋ラセリ　六十我曾テ爾ノ誡ヲ守ルヿ速ニシテ遲カラズ　六一惡人ノ網曾テ我ヲ圍メ𪜈我爾ノ法律ヲ忘レズ　六二我夜半ニ興テ爾ガ義ナル定ノ爲ニ爾ヲ讚榮セリ　六三凡ソ爾ヲ畏レテ爾ノ命ヲ守ル者ハ我之ト儔タリ　六四主ヤ地ハ爾ノ憐ニテ滿サレタリ爾ノ律ヲ我ニ誨ヘ給ヘ　六五主ヤ爾ハ已ニ爾ノ言ニ循テ善ヲ爾ノ僕ニ行ヘリ　六六我ニ善キ明悟ト智慧ヲ誨ヘ給ヘ我爾ノ誡ヲ信ズレバナリ　六七我我ガ苦ノ先ニ迷ヘリ今ハ則爾ノ言ヲ守ル　六八主ヤ爾ハ善ニシテ善ヲ行フ者ナリ爾ノ律ヲ我ニ誨ヘ給ヘ　六九誇ル者ハ誑ヲ編テ我ヲ攻ム唯我心ヲ盡シテ爾ノ命ヲ守ラン　七十彼等ノ心ハ肥エタルヿ脂ノ如シ惟我爾ノ法律ヲ以テ慰トス　七一我ガ爾ノ律ヲ學バンガ爲ニ苦ミシハ我ノ善ナリ　七二爾ガ口ノ法律ハ我ガ爲ニ金銀千々ヨリモ貴シ

光榮讚詞

七三爾ノ手我ヲ造リ我ヲ設ケリ我ニ悟ヲセ給ヘ則我爾ノ誡ヲ學バン　七四爾ヲ畏ル丶者ハ我ヲ見テ我ガ爾ノ言ヲ恃ヲ喜バン　七五主ヤ我爾ガ定ノ義ナルヲ知ル爾義ヲ以テ我ヲ罰セ

リ 七六願ハ爾ノ憐ハ爾ガ爾ノ僕ニ賜ヒシ言ニ循フテ我ノ慰トナラン 七七願ハ爾ノ憐ハ我ニ至ラン則我生キン蓋爾ノ法律ハ我ノ慰ナリ 七八願ハ誇ル者ハ辱メラレン蓋彼等故ナクシテ我ヲ攻ム我爾ノ命ヲ考フ 七九願ハ爾ヲ畏レテ爾ノ啓示ヲ識ル者ハ我ニ向ハン 八十願ハ我ガ心爾ノ律ニ玷ナクシテ我羞ヲ承ケザラン 八一我ガ靈爾ノ救ヲ慕フテ銷ユ我爾ノ言ヲ恃ム 八二我ガ目ハ爾ノ言ヲ俟チテ銷ユ我謂フ爾何ノ時我ヲ慰ルヤ 八三我ハ革囊ノ烟ノ中ニ在ルガ如シ然レ𪜈爾ノ律ヲ忘レズ 八四爾ガ僕ノ日ハ幾何アル爾何ノ時我ヲ窘逐スル者ヲ審判スルヤ 八五誇ル者ハ爾ノ法律ニ悖リテ我ガ爲ニ阱

ヲ掘レリ 八六爾ノ誡ハ皆眞實ナリ彼等不義ヲ以テ我ヲ窘逐ス我ヲ助ケ給ヘ 八七彼等幾ド我ヲ地ニ亡セリ然レ𪜈我爾ノ命ヲ棄テザリキ 八八爾ノ憐ニ依テ我ヲ生シ給ヘ我爾ガ口ノ啓示ヲ守ラン 八九主ヤ爾ノ言ハ永ク天ニ固メラレタリ 九十爾ノ眞實ハ世々ニ在リ爾地ヲ立ツレバ地即立ツ 九一爾ノ定ニ循フテ皆立テ今ニ至ル蓋悉ク爾ニ務ム 九二倘爾ノ法律我ノ慰トナラザレバ我ハ我ガ禍ノ中ニ亡ビン 九三我永ク爾ノ命ヲ忘レザラン蓋爾此ヲ以テ我ヲ生ス 九四我爾ニ屬ス我ヲ救ヒ給ヘ我爾ノ命ヲ求ムレバナリ 九五惡人ハ我ヲ伺フテ亡サント欲ス惟我爾ノ啓示ヲ究ム 九六我凡ノ全備ノ限ヲ見タリ

惟爾ノ誡ハ廣キヿ測リ難シ　九七　我幾何カ爾ノ法律ヲ愛スル
我終日之ヲ考フ　九八　爾ハ爾ノ誡ヲ以テ我ヲ我ガ敵ヨリ智ナ
ラシメリ蓋此常ニ我ト偕ニス　九九　我ノ智識ハ我ガ都ノ教師
ニ逾エタリ我爾ノ啓示ヲ考フレバナリ　百　我ノ多識ハ老人
ニ勝ル我爾ノ命ヲ守レバナリ　百一　我我ガ足ヲ悉ノ悪キ道ニ
禁ズ爾ノ言ヲ守ランガ爲ナリ　百二　我爾ノ定ヲ避ケズ爾我ヲ
訓フレバナリ　百三　爾ノ言ハ我ガ喉ニ於テ幾何カ甘キ我ガ口
ニハ蜜ヨリモ甘シ　百四　我爾ノ命ヲ以テ諭サレタリ故ニ悉ノ
詐ノ道ヲ疾ム　百五　爾ノ言ハ我ガ足ノ燈我ガ路ノ光ナリ　百六　我
爾ノ義ナル定ヲ守ルヲ盟ヘリ即之ヲ成サン　百七　主ヤ我痛ク

迫害セラレタリ爾ノ言ニ循フテ我ヲ生カシ給ヘ　百八　主ヤ我ガ
口ノ自由ナル獻祭ヲ受クルヲ悦ビテ我ニ爾ノ定ヲ誨ヘ給
ヘ　百九　我ガ靈ハ恒ニ我ガ手ニ在リ然レドモ我爾ノ法律ヲ忘レ
ズ　百十　悪人ハ我ガ爲ニ網ヲ張レリ然レドモ我爾ノ命ヲ避ケズ
百十一　我爾ノ啓示ヲ永キ嗣業トシテ受ケタリ蓋此レ我ガ心
ノ樂ナリ　百十二　我我ガ心ヲ傾ケ永ク爾ノ律ヲ行フテ終ニ迄
ラン　百十三　我人ノ虚説ヲ疾ミ惟爾ノ法律ヲ愛ス　百十四　爾ハ我
ノ帡幪ト我ノ盾ナリ我爾ノ言ヲ恃ム　百十五　不法ノ者ヤ我ヲ
離レヨ我我ガ神ノ誡ヲ守ラン　百十六　爾ノ言ニ循フテ我ヲ固
メ給ヘ我即生キン我ガ望ニ於テ我ヲ辱ムル毋レ　百十七　我ヲ

助ケ給ヘ則我救ヲ得恒ニ爾ノ律ヲ顧ミン　百十八 凡ソ爾ノ律
ニ離ルヽ者ハ爾之ヲ仆ス蓋彼等ノ謀ハ詭ナリ　百十九 凡ソ地
ノ惡人ハ爾之ヲ除クヿ鉄滓ノ如シ故ニ我爾ノ啓示ヲ愛セ
リ　百廿 爾ヲ畏ルヽニ因テ我ガ肉躰慄キ我爾ノ定ヲ懼ル　百廿
一 我定ト義ヲ行ヘリ我ヲ我ガ窘逐者ニ付ス毋レ　百廿二 爾ノ
僕ヲ護リテ善ヲ得セシメ誇ル者ニ我ヲ迫害スルナカラシ
メヨ　百廿三 我ガ目ハ爾ノ救ト爾ガ義ノ言ヲ望ミテ消ユ　百廿四
爾ノ憐ニ依テ爾ノ僕ニ行ヒ爾ノ律ヲ以テ我ニ誨ヘ給ヘ　百廿
五 我ハ爾ノ僕ナリ我ニ悟ラシメヨ則爾ノ啓示ヲ識ラン　百廿
六 主ニ事ヲ行フノ時至レリ人爾ノ法律ヲ毀テリ　百廿七 唯我

爾ノ誡ヲ愛スルヿ金ト純金ニ愈ル　百廿八 我爾ガ悉ノ命ヲ承
認メテ正トシ悉ノ詭ノ途ヲ疾ム　百廿九 爾ノ啓示ハ奇妙ナリ
故ニ我ガ靈之ヲ守ル　百卅 爾ガ言ノ啓發ハ光ヲ施シ愚者ヲ
悟ラシム　百卅一 我口ヲ啓テ喘グ爾ノ誡ニ渴ケバナリ

光榮讚詞

百卅二 我ヲ顧リミ我ヲ憐ミ爾ノ名ヲ愛スル者ニ行フガ如ク
セヨ　百卅三 我ガ足ヲ爾ノ言ニ固メ給ヘ諸ノ不法ノ我ヲ制ス
ルヲ許ス毋レ　百卅四 我ヲ人ノ迫害ヨリ救ヒ給ヘ然セバ我爾
ノ命ヲ守ラン　百卅五 爾ガ顔ノ光ニテ爾ノ僕ヲ照シ爾ノ律ヲ
我ニ誨ヘ給ヘ　百卅六 我ガ目ハ水ノ流ヲ注グ人爾ノ法律ヲ守

ラザルニ縁ル 百卅七 主ヤ爾ハ義ナリ爾ノ定ハ正シ 百卅八 爾ノ
命ゼシ啓示ハ義ナリ全キ眞實ナリ 百卅九 我ガ熱心ハ我ヲ蝕
ム我ガ敵爾ノ言ヲ忘レシニヨル 百四十 爾ノ辭ハ孔清シ爾ノ
僕ハ之ヲ愛ス 百四一 我微小ニシテ卑シト雖モ爾ノ命ヲ忘レ
ズ 百四二 爾ノ義ハ永遠ノ義爾ノ法律ハ眞實ナリ 百四三 悲ト憂
ハ我ニ及ベリ爾ノ誡ハ我ノ慰ナリ 百四四 爾ガ啓示ノ義ハ永
遠ナリ我ヲ悟ラセ給ヘ則我生キン 百四五 我心ヲ盡シテ籲ブ
主ヤ我ニ聽キ給ヘ則我爾ノ律ヲ守ラン 百四六 爾ヲ籲ブ我ヲ
救ヒ給ヘ則我爾ノ啓示ヲ守ラン 百四七 黎明ニ先チテ籲ビ爾
ノ言ヲ恃ム 百四八 我ガ目夜更ニ先チテ寤ム爾ノ言ヲ究メシ

トスルニ縁ル 百四九 主ヤ爾ノ憐ニ依テ我ガ聲ヲ聆キ爾ノ定
ニ依テ我ヲ生カシ給ヘ 百五十 惡ヲ謀ル者邇ヅケリ彼等ハ爾
ノ法律ニ遠カル 百五一 主ヤ爾ハ邇シ爾ガ誡ハ眞實ナリ
百五二 我昔ヨリ爾ノ啓示ハ爾ガ之ヲ世々ニ立シヲ知レリ 百五
三 我ガ阨ヲ顧テ我ヲ遁レシメ給ヘ蓋我爾ノ法律ヲ忘レズ
百五四 我ガ訟ヲ理メテ我ヲ護リ爾ノ言ニ循フテ我ヲ生シ給
ヘ 百五五 救ハ惡人ニ遠シ蓋彼等ハ爾ノ律ヲ求メズ 百五六 主ヤ
爾ノ恩澤ハ多シ爾ノ定ニ依テ我ヲ生カシ給ヘ 百五七 我ニ窘
逐者ト敵人多シ惟我爾ノ啓示ヲ離レズ 百五八 我悖者ヲ見テ
憂フ彼等爾ノ言ヲ守ラザレバナリ 百五九 視ヨ我若何ニ爾ノ

命ヲ愛スルヤ主ヤ爾ノ憐ニ依テ我ヲ生カシ給ヘ 百六十 爾ガ
言ノ本ハ眞實ナリ凡ソ爾ガ義ノ定ハ永遠ナリ 百六一 牧伯ハ
故ナクシテ我ヲ窘逐ス惟我ガ心爾ノ言ヲ懼ル 百六二 我爾ノ
言ヲ悦ブヿ大ナル利益ヲ獲シ者ノ如シ 百六三 我譌ヲ疾テ之
ヲ忌ミ惟爾ノ法律ヲ愛ス 百六四 我爾ガ義ノ定ノ爲ニ日ニ七
度爾ヲ讃榮ス 百六五 爾ノ法律ヲ愛スル者ニハ大ナル平安ア
リ彼等ニ躓ナシ 百六六 主ヤ我爾ノ救ヲ恃ミ爾ノ誡ヲ行フ 百六
七 我ガ靈爾ノ啓示ヲ守リ我孔之ヲ愛ス 百六八 我爾ノ命ト爾
ノ啓示ヲ守ル蓋我ガ道ハ悉ク爾ノ前ニアリ 百六九 主ヤ願ハ
我ガ籲聲ハ爾ガ顏ノ前ニ邇ヅカン爾ノ言ニ依テ我ヲ悟ラ

セ給ヘ 百七十 願ハ我ガ禱ハ爾ガ顏ノ前ニ至ラン爾ノ言ニ依
テ我ヲ救ヒ給ヘ 百七一 爾ガ我ニ爾ノ律ヲ誨ヘン時我ガ口讃
美ヲ發セシ 百七二 我ガ舌爾ノ言ヲ述ベシ蓋爾ガ悉ノ誡ハ義
ナリ 百七三 願ハ爾ノ手ハ我ノ助トナラシ蓋我爾ノ命ヲ擇ベ
リ 百七四 主ヤ我爾ノ救ニ渇ク爾ノ法律ハ我ノ慰ナリ 百七五 願
ハ我ガ靈生キテ爾ヲ讃榮セン願ハ爾ノ定ハ我ヲ助ケン 百七
六 我迷ヒシヿ亡ハレタル羊ノ如シ爾ノ僕ヲ尋ネ給ヘ蓋我
爾ノ誡ヲ忘レズ

第十八「カフィズマ」

光榮讃詞

第百十九聖詠

登上ノ歌

一 我我ガ憂ノ中ニ主ニ呼ビシニ彼我ニ聽ケリ 二 主ヤ我ガ靈ヲ詐ルノ口欺クノ舌ヨリ免レシメ給ヘ 三 欺クノ舌ハ何ヲ以テ爾ニ予ヘ何ヲ以テ爾ニ加ヘントスルヤ 四 勇者ノ鋭キ箭ト杜松ノ熱炭ナリ 五 哀哉我モソフニ旅シキダルノ幕ノ旁ニ居ル 六 我ガ靈和睦ヲ疾ム者ト偕ニ居ルヿ已ニ久シ 七 我和ヲ好メリ然レ圧我言ヲ出セバ彼等戰ヲ與ス

第百二十聖詠

登上ノ歌

一 我目ヲ擧ゲテ山ヲ望ム我ガ助ハ彼處ヨリ來ラン 二 我ガ助ハ天地ヲ造リシ主ヨリ來ル 三 彼ハ爾ノ足ニ躓クヲ許サゞラン爾ヲ守ル者ハ眠ラザラン 四 イズライリヲ守ル者ハ眠ラズ寢ネズ 五 主ハ爾ヲ守ル者ナリ主ハ爾ノ右ノ手ノ庇ナリ 六 晝ニ日ハ爾ヲ傷メザラン夜ニ月モ亦然リ 七 主ハ爾ヲ諸ノ禍ヨリ守ラン主ハ爾ノ靈ヲ守ラントス 八 主ハ爾ノ出入ヲ守リテ今ヨリ世々ニ至ラン

第百廿一聖詠

登上ノ歌ダワィドノ作ル所

一 人我ニ向フテ我等主ノ室ニ往クベシト云フ时我喜ベリ

二 イエルサリムヤ我等ノ足ハ爾ノ門ニ立ツ 三 イエルサリムハ乃築カレシヿ稠密ノ城邑ノ如ク 四 諸支派即主ノ支派ガイズライリノ法ニ遵ヒ上テ主ノ名ヲ讃榮スル處ナリ 五 彼處ニ審判ノ寶座ダワイドノ家ノ寶座ハ立ツ 六 イエルサリムノ爲ニ平安ヲ求メヨ願ハ爾ヲ愛スル者ハ安寧ヲ得シ 七 願ハ爾ノ城中ハ平安爾ノ宮中ハ安寧ナラシ 八 我我ガ兄弟ト我ガ鄰ノ爲ニ云フ爾平安ナレ 九 主我ガ神ノ室ノ爲ニ我爾ニ福ヲ願フ

第百廿二聖詠

登上ノ歌

一 天ニ居ル者ヤ我目ヲ擧ゲテ爾ヲ望ム 二 夫レ僕ノ目主人ノ手ヲ望ミ婢ノ目主婦ノ手ヲ望ムガ如ク我等ノ目ハ主我ガ神ヲ望ミテ其我等ヲ憐ムヲ俟ツ 三 主ヤ我等ヲ憐ミ我等ヲ憐ミ給ヘ蓋我等ハ侮ニ饜足リ 四 我等ノ靈ハ驕ル者ノ辱ト誇ル者ノ侮ニ饜足レバナリ

第百廿三聖詠

登上ノ歌ダワイドノ作ル所

一 イズライリ云フベシ若主我等ト偕ニアラズ 二 人々起テ我等ヲ攻ルトキ若主我等ト偕ニアラザレバ 三 彼等ガ我等ニ於ルノ怒ハ燃エテ彼等ハ我等ヲ生ナガラ呑マン 四 水ハ我

等ヲ沈メ流ハ我等ガ靈ノ上ヲ過ギ 五 暴タル水ハ我等ガ靈ノ上ヲ過ギン 六 我等ヲ畀ヘテ彼等ガ齒ノ獲物トナサザリシ主ハ崇讃メラル 七 我等ノ靈ハ脱ガレシ鳥ガ捕フル者ノ羅ヲ脱ガル、ガ如シ羅裂カレテ我等脱ガレタリ 八 我等ノ扶助ハ天地ヲ造リシ主ノ名ニ在リ

光榮讃詞

第百廿四聖詠

登上ノ歌

一 主ヲ頼ム者ハシオン山ノ如ク動カズシテ永ク存ス 二 諸山ハイエルサリムヲ環リ主ハ其民ヲ環リテ今ヨリ世々ニ

迄ラン 三 蓋主ハ惡者ノ杖ニ義者ノ業ノ上ニアルヲ許サヾラン義者ガ其手ヲ不法ニ伸ベザランガ爲ナリ 四 主ヤ恩テ善人ト心ノ直キ者ニ施シ給ヘ 五 己ノ曲徑ニ轉ズル者ニ至テハ願ハ主彼等ニ不法ヲ行フ者ト偕ニ行クヲ許サン願ハ平安イズライリニ歸セン

第百廿五聖詠

登上ノ歌

一 主ガ曾テシオンノ擄ヲ返スキ我等夢ミルガ如シ 二 其時我ガ口ハ樂ニ盈チ我ガ舌ハ歌ニ滿ツ其時諸民ノ中云フアリ主ハ彼等ニ大事ヲ行ヘリト 三 主ハ我等ニ大事ヲ行ヘリ

我等喜ベリ 四 主ヤ我等ノ擄ヲ返スヿ南方ノ流ノ如クセヨ
五 涙ヲ以テ播ク者ハ喜ヲ以テ穫ラン 六 泣テ種ヲ携フル者
ハ歡ンデ其禾束ヲ携ヘテ歸ラン

第百廿六聖詠

登上ノ歌ソロモンノ作ル所

一 若主家ヲ造ラザレバ造ル者徒ニ勞シ若主城ヲ守ラザレ
バ守ル者徒ニ儆醒ス 二 爾等徒ニ夙ニ興キ遲ク寢テ憂ノ餅
ヲ食フ時ニ彼ハ其愛スル者ニ寢ルヲ賜フ 三 視ヨヤ主ガ賜
フ所ノ業ハ子ナリ其褒賞ハ腹ノ果ナリ 四 少壯ノ子ハ箭ノ
勇者ノ手ニアルガ如シ 五 此ヲ其箙ニ充テシ者ハ福ナリ彼
等門ノ内ニ在テ敵ト共ニ言フトキ羞ヲ承ケザラシム

第百廿七聖詠

登上ノ歌

一 凡ソ主ヲ畏レテ其途ヲ行ク者ハ福ナリ 二 爾ハ已ガ手ノ
勞ニ依テ食ハン爾ハ福ナリ爾ハ善ヲ得タリ 三 爾ノ妻ハ爾
ノ家ニ在テ實繁キ葡萄ノ樹ノ如ク爾ノ諸子ハ爾ノ席ヲ環
ルヿ橄欖ノ枝ノ如シ 四 主ヲ畏ルヽ者ハ此ノ如ク降福セラ
レン 五 主ハシオンヨリ爾ニ降福セン爾在世ノ諸日イエル
サリムノ安寧ヲ視ン 六 爾ハ爾ガ子ノ子ヲ見ン願ハ平安イ
ズライリニ歸セン

第百廿八聖詠

登上ノ歌

一 イズライリ云フベシ我ガ幼キ時ヨリ彼等多ク我ヲ攻メ
二 我ガ幼キ時ヨリ彼等多ク我ヲ攻ムレドモ我ニ勝タズ 三 耕
ス者ハ我ガ背ニ耕シ其畎ヲ長クセリ 四 然レドモ主ハ義ナリ
彼ハ悪者ノ施セル縛ヲ斷テリ 五 願ハシオンヲ疾ム者ハ皆
羞ヲ承ケテ退ケラレン 六 願ハ彼等ハ屋上ノ草拔カレズシ
テ枯ル丶者ノ如クナラン 七 刈ル者ハ之ヲ以テ其手ニ盈タ
ズ束ヌル者ハ其握ニ盈タズ 八 過グル者ハ主ノ降福ハ爾等
ニ歸スベシ我等主ノ名ニ藉テ爾等ニ降福スト云ハザラン

光榮讃詞

第百廿九聖詠

登上ノ歌

一 主ヤ我深キ處ヨリ爾ニ呼ブ 二 主ヤ我ガ聲ヲ聽キ給ヘ願
ハ爾ノ耳ハ我ガ禱ノ聲ヲ聽納レン 三 主ヤ爾若不法ヲ糾サ
バ主ヤ孰カ能ク立タン 四 然レドモ爾ニ赦アリ人ニ爾ノ前ニ
敬マシム 五 我主ヲ望ミ我ガ靈ハ主ヲ望ミ我彼ノ言ヲ恃ム
六 我ガ靈主ヲ待ツヿ番人ノ旦ヲ待チ番人ノ旦ヲ待ツヨリ
甚シ 七 願ハイズライリハ主ヲ恃マン蓋憐ハ主ニアリ大ナ
ル贖モ彼ニアリ 八 彼ハイズライリヲ其悉ノ不法ヨリ贖ハ

シトス

第百三十聖詠

登上ノ歌ダワイドノ作ル所

一 主ヤ我ガ心驕ラズ我ガ目誇ラズ我曾テ大ニシテ我ガ及ブ能ハザル事ニ入ラズ 二 我豈ニ我ガ靈ヲ鎭メ之ヲ安ズルコ母ノ乳ヲ斷チシ兒ノ如クセザリシヤ我靈我ガ衷ニ於テ乳ヲ斷チシ兒ノ如クナレリ 三 願ハイズライリハ主ヲ恃ミテ今ヨリ世々ニ迄ラン

第百卅一聖詠

登上ノ歌

一 主ヤダワイドト其悉ノ憂ヲ記憶セヨ 二 彼主ニ誓ヒイヤコフノ有能者ニ約シテ云ヘリ 三 我我ガ家ノ幕ニ入ラズ我ガ臥榻ニ登ラズ 四 我ガ目ニ寐ヲ我ガ眉ニ眠ルヲ容ルサズシテ 五 主ノ爲ニ處所ヲ得イヤコフノ有能者ノ爲ニ住所ヲ得ルニ迄ラント 六 視ヨ我等之ヲエフラフニ聞キ之ヲイアリムノ田ニ遇ヘリ 七 我等彼ノ住所ニ行キ彼ノ足凳ニ叩拜セン 八 主ヤ爾ト爾ガ能力ノ匱ハ爾ガ安息ノ所ニ立テヨ 九 爾ノ司祭等ハ義ヲ衣爾ノ諸聖者ハ悅バン 十 爾ノ僕ダワイドノ爲ニ爾ガ膏ツケラレシ者ノ面ヲ轉ズル毋レ 十一 主ハ眞實ヲ以テダワイドニ誓フテ之ニ背カザラン曰ク我爾ガ腹ノ果ヲ

以テ爾ノ寶座ニ坐セシメン 十二 爾ノ嗣如我ガ約ト我ガ彼等ヲ
ニ諭ントスルノ啓示ヲ守ラバ其嗣モ亦永ク爾ノ寶座ニ坐
セン 十三 蓋主ハシオンヲ擇ビ此ヲ以テ其住所トスルヲ望メ
リ 十四 曰ク此レ我ガ世々ノ安居ナリ我此ニ居ラン蓋我之ヲ
望メリ 十五 我其糧ヲ降福シ降福セン餅ヲ以テ其貧キ者ヲ饜
サン 十六 我救ヲ以テ其司祭等ニ衣セン其諸聖者ハ喜ビ悦バ
ン 十七 我彼處ニ於テダワイドニ角ヲ伸バシ我ガ膏ツケラレシ
者ノ爲ニ燈ヲ立テン 十八 我其敵ニ恥ヲ衣セン其冕ハ其上ニ
耀カン

第百卅二聖詠

登上ノ歌ダワイドノ作ル所

一 兄弟睦ク居ルハ善ナル哉美ナル哉 二 是寶ナル膏ガ首ニ
アリテ髯即アロンノ髯ニ流レ其衣ノ裾ニ流ル、ガ如ク
三 エルモンノ露ノシオン山ニ降ルガ如シ蓋彼處ニ於テ主
ハ降福ト永生ヲ命ゼリ

第百卅三聖詠

登上ノ歌

一 主ノ諸僕夜中主ノ宮我ガ神ノ宮ノ庭ニ立ツ者ヤ今主ヲ
崇讃メヨ 二 爾ノ手ヲ擧ゲ聖所ニ向フテ主ヲ崇讃メヨ 三 天
地ヲ造リシ主ハシオンヨリ爾ニ降福セン

光榮讃詞

第十九「カフィズマ」

第百卅四聖詠

アリルイヤ
一主ノ名ヲ讃揚ゲヨ　二主ノ諸僕主ノ宮我ガ神ノ宮ノ庭ニ
立ツ者ヤ讃揚ゲヨ　三主ヲ讃揚ゲヨ主ハ仁慈ナレバナリ其
名ヲ歌ヘヨ是美ナレバナリ　四蓋主ハ已ノ爲ニイヤコフヲ
選ビイズライリヲ選デ其業トナセリ　五我主ノ大ナルヲ知
リ我等ノ主ノ諸神ヨリ最高キヲ知レリ　六主ハ凡ソ欲スル
所ヲ天ニ地ニ海ニ諸淵ニ行フ　七雲ヲ地ノ極ヨリ起シ雨ノ
中ニ電ヲ作リ風ヲ其庫ヨリ出ス　八彼エギペトノ初子ヲ擊
チ人ヨリ家畜ニ及ベリ　九エギペトヤ彼爾ノ中ニ於テ休徵
奇迹ヲファラオント其悉ノ僕ニ遣セリ　十又多民ヲ擊チ有力
ノ王ヲ滅セリ　十一即アモレイノ王シゴンワサンノ王オグ及
ハナアンノ諸國ナリ　十二其地ヲ賜テ業トナシ其民イズライ
リノ業トナセリ　十三主ヤ爾ノ名ハ永クアリ主ヤ爾ヲ記憶ス
ルハ世々ニ在リ　十四蓋主ハ其民ヲ審判シ其諸僕ニ憐ヲ垂レ
ン　十五異邦ノ偶像ハ乃銀乃金人ノ手ノ造ル所ナリ　十六彼口ア
リテ言ハズ目アリテ見ズ　十七耳アリテ聽カズ其口ニ呼吸ナ
シ　十八之ヲ造ル者ト凡之ヲ恃ム者ハ是ト相似ン　十九イズライ

リノ家ヤ主ヲ崇讃メヨアロンノ家ヤ主ヲ崇讃メヨ 廿 レ
ヰノ家ヤ主ヲ崇讃メヨ主ヲ畏ルヽ者ヤ主ヲ崇讃メヨ 廿一 イ
エルサリムニ在ス主ハシオンニ崇讃メラル「アリルイヤ」

第百卅五聖詠

（アリルイヤ）

一 主ヲ讃榮セヨ蓋彼ハ仁慈ニシテ其憐ハ世々ニアレバナ
リ 二 諸神ノ神ヲ讃榮セヨ其憐ハ世々ニアレバナリ 三 諸主
ノ主ヲ讃榮セヨ其憐ハ世々ニアレバナリ 四 獨大ナル奇跡
ヲ行フ者其憐ハ世々ニアレバナリ 五 睿智ヲ以テ天ヲ造リ
シ者其憐ハ世々ニアレバナリ 六 地ヲ水ノ上ニ定メシ者其

憐ハ世々ニアレバナリ 七 大ナル光ヲ造リシ者其憐ハ世々
ニアレバナリ 八 即日ヲ造テ晝ヲ司ル其憐ハ世々ニアレバ
ナリ 九 月ト星ヲ造テ夜ヲ司ル其憐ハ世々ニアレバナリ 十
エギペトノ初子ヲ撃チシ者其憐ハ世々ニアレバナリ 十一 イ
ズライリヲ其中ヨリ出セシ者其憐ハ世々ニアレバナリ 十二
即勁キ手ト伸タル臂トヲ以テセリ其憐ハ世々ニアレバナ
リ 十三 紅ノ海ヲ判チシ者其憐ハ世々ニアレバナリ 十四 其中ニ
イズライリ人ヲ通セシ者其憐ハ世々ニアレバナリ 十五 ファラ
オント其軍ヲ紅ノ海ニ倒セシ者其憐ハ世々ニアレバナリ
十六 其民ヲ導テ曠野ヲ通セシ者其憐ハ世々ニアレバナリ 十七

諸大王ヲ擊ナシ者其憐ハ世々ニアレバナリ　十八有力ノ諸王
ヲ戮セシ者其憐ハ世々ニアレバナリ　十九即アモレイノ王シ
ゴン其憐ハ世々ニアレバナリ　廿ワサンノ王オグ其憐ハ世
々ニアレバナリ　廿一彼等ノ地ヲ賜フテ業トナセシ者其憐ハ
世々ニアレバナリ　廿二即其僕イズライリノ業ナリ其憐ハ世
々ニアレバナリ　廿三我等ヲ賤キ時ニ記念セシ者其憐ハ世々
ニアレバナリ　廿四我等ヲ我敵ヨリ救ヒシ者其憐ハ世々ニア
レバナリ　廿五糧ヲ悉ノ肉體ニ賜ヒシ者ヲ讚榮セヨ其憐ハ世
々ニアレバナリ　廿六天ノ神ヲ讚榮セヨ其憐ハ世々ニアレバ
ナリ

第百卅六聖詠

一我等曾テワワィロンノ河邊ニ坐シシオンヲ想フテ泣ケリ
二彼ノ中ニ於テ我等琴ヲ柳ニ懸ケリ　三彼處ニハ我等ヲ執
ヘシ者我等ニ歌ノ言ヲ求メ我等ヲ攻ムル者我等ニ樂ヲ求
メテ云ヘリ我ガ為ニシオンノ歌ヲ歌ヘヨ　四我等異邦ノ地
ニ在テ豈ニ主ノ歌ヲ歌ハンヤ　五イエルサリムヤ若我爾ヲ
忘ルレバ願ハ我ガ右ノ手我ヲ忘レン　六イエルサリムヤ若
我爾ヲ憶ハズ爾ヲ我ガ樂ノ首ニ置カザレバ願ハ我ガ舌我
ガ腭ニ貼カン　七主ヤエドムノ子ノ為ニイエルサリムノ日
ヲ記憶セヨ其言ニ云ヘリ之ヲ壞チ之ヲ壞ナ其基ニ迄レ　八

諸神ノ前ハ七十八ノ翻譯ニ諸神使ノ前ニ作ル

ワ゛ワィロンノ殘害ノ女ヤ爾ガ我等ニ行ヒシ事ヲ爾ニ報インヽトスル者ハ福ナリ　九　爾ノ嬰兒ヲ執テ石ニ擊タントスル者ハ福ナリ

光榮讚詞

第百卅七聖詠

ダワィドノ詠

一　我心ヲ盡シテ爾ヲ讚榮シ諸神ノ前ニ於テ爾ニ歌フ蓋我ガ口ノ言ハ爾悉ク之ヲ聽ケリ　二　我爾ガ聖堂ノ前ニ叩拜シ爾ノ憐ト爾ガ眞實ノ爲ニ爾ノ名ヲ讚榮ス蓋爾ハ爾ノ言ヲ廣大ニシテ悉ノ爾ノ名ニ逾エシメリ　三　我ガ呼ブノ日爾我ニ聽キ我ガ靈ヲ勇マセリ　四　主ヤ地ノ諸王爾ガ口ノ言ヲ聽ク時皆爾ヲ讚榮シ　五　主ノ途ヲ歌ハン蓋主ノ光榮ハ大ナリ　六　主ハ高クシテ謙ル者ヲ見誇ル者ヲ遙ニ識ル　七　我若苦難ノ中ニ行カバ爾我ヲ生カシ爾ノ手ヲ伸ベテ我ガ敵ノ怒ヲ攻メン爾ガ右ノ手ハ我ヲ救ハン　八　主ハ我ニ代テ行ハン主ヤ爾ノ憐ハ世々ニアリ爾ノ手ノ造リシ者ヲ棄ル毋レ

第百卅八聖詠

ダワィドノ詠伶長ニ之ヲ歌ハシム

一　主ヤ爾我ヲ試ミテ我ヲ識ル　二　我坐シ我起ツ爾之ヲ識ル爾遠ヨリ我ノ念慮ヲ知ル　三　我往キ我息フ爾我ヲ環ル我ガ

悉ノ途ハ爾之ヲ知レリ　四主ヤ我ガ舌未ダ言ナキニ爾已ニ
全ク之ヲ識ル　五爾前後ヨリ我ヲ圍ミ爾ノ手ヲ我ニ置ク　六
爾ノ知識ハ我ガ爲ニ奇異ナリ高尚ナリ我之ヲ測ル能ハズ
七我安ニ往テ爾ノ神ヲ避クルヤ安ニ走テ爾ノ顔ヲ逃ルヽ
ヤ　八天ニ升ランカ爾彼處ニアリ地獄ニ降ランカ彼處ニモ
爾アリ　九曉ノ翼ヲ取テ海ノ極ニ移ランカ　十彼處ニモ爾ノ
手我ヲ導キ爾ノ右ノ手我ヲ援ケン　十一或ハ闇冥我ヲ隱クシ
我ヲ環ルノ光夜トナラント云ハンカ　十二然レ𪜈闇冥モ爾ノ
前ニ暗カラシメザラン夜モ明ナルヿ晝ノ如ク闇冥ハ光ノ
如シ　十三蓋爾我ガ臟腑ヲ造リ我ガ母ノ腹ノ中ニ我ヲ織レリ

十四我爾ヲ讚榮ス蓋我奇妙ノ造ヲ受ケリ爾ノ作爲ハ奇異ナ
リ我ガ靈全ク之ヲ知ル　十五我ガ奥密ニ造ラレ腹ノ深ニ形ツ
クラルヽ時我ガ骨爾ニ隱レズ　十六我ガ胚胎ハ爾ノ目之ヲ見
タリ我ガ爲ニ定メラレシ日未ダ其一モアラザルニ皆爾ノ
書ニ記サレタリ　十七神ヤ爾ノ念慮我ガ爲ニ何ゾ高キヤ其數
何ゾ多キヤ　十八我之ヲ計ランカ然レ𪜈其多キヿ沙ニ過グ我
寤ル時尚爾ト偕ニス　十九嗚呼神ヤ願ハ爾惡者ヲ撃タン血ヲ
流ス者ヤ我ニ離レヨ　廿彼等爾ニ向フテ惡ヲ言ヒ爾ノ敵ハ
空ク謀ル　廿一主ヤ我豈ニ爾ヲ疾ム者ヲ疾マザランヤ我豈ニ
爾ニ逆フ者ヲ厭ハザランヤ　廿二我甚シキ疾ヲ以テ彼等ヲ疾

ミ彼等ヲ以テ我ガ敵トス　廿三神ヤ我ヲ試ミテ我ガ心ヲ知リ我ヲ試ミテ我ガ念慮ヲ知レヨ　廿四若我ガ危キ途ニ在ルヲ見バ我ヲ永遠ノ途ニ向ハシメ給ヘ

第百卅九聖詠

一ダワイドノ詠伶長ニ之ヲ歌ハシム

二主ヤ我ヲ惡人ヨリ救ヒ我ヲ强暴者ヨリ護リ給ヘ　三彼等心ニ惡ヲ謀リ毎日戰ヲ備フ　四彼等ハ蛇ノ如ク其舌ヲ銳クシ蝮ノ毒ハ其口ニアリ　五主ヤ我ヲ惡者ノ手ヨリ守リ我ガ足ヲ蹶カシメンコトヲ謀ル强暴者ヨリ我ヲ守リ給ヘ　六誇ル者ハ我ガ爲ニ機檻ト羂絆ヲ伏セ網ヲ途ニ張リ我ガ爲ニ

罟ヲ設ケリ　七我主ニ云ヘリ爾ハ我ノ神ナリ主ヤ我ガ禱ノ聲ヲ聽キ給ヘ　八主ヤ主ヤ我ガ救ノ力ヤ爾戰ノ日ニ我ガ首ヲ蔽ヘリ　九主ヤ惡者ノ望ム所ヲ允ス毋レ其惡キ謀ヲ遂ゲシムル毋レ彼等ハ誇ラン　十願ハ我ヲ環ル者ノ首ハ其己ガ口ノ惡之ヲ覆ハン　十一願ハ爇炭ハ彼等ニ落ナン願ハ彼等ハ火中ニ深坑ニ落トサレテ復起ツヲ得ザラン　十二惡舌ノ人ハ地ニ堅ク立タザラン惡ハ强暴者ヲ滅ニ引入レン　十三我知ル主ハ迫害セラレシ者ノ爲ニ審判ヲ行ヒ貧シキ者ノ爲ニ正キコトヲ行ハン　十四然リ義者ハ爾ノ名ヲ讚榮シ無玷ノ者ハ爾ガ顏ノ前ニ居ラン

光榮讚詞

第百四十聖詠

ダワイドノ詠

一 主ヤ爾ニ籲ブ速ニ我ニ格リ給ヘ爾ニ籲ブ時我ガ禱ノ聲ヲ納レ給ヘ 二 願ハ我ガ禱ハ香爐ノ香ノ如ク爾ガ顏ノ前ニ登リ我ガ手ヲ擧ルハ暮ノ祭ノ如ク納レラレン 三 主ヤ我ガ口ニ衛ヲ置キ我ガ唇ノ門ヲ扞ギ給ヘ 四 我ガ心ニ邪ナル言ニ傾キテ不法ヲ行フ人ト共ニ罪ノ推諉セシムル勿レ願ハ我ハ彼等ノ甘味ヲ嘗ザラン 五 願ハ義人ハ我ヲ罰セン是矜恤ナリ願ハ我ヲ譴メン是極ト美キ油我ガ首ヲ惱ス能ハザ

ル者ナリ唯我ガ禱ハ彼等ノ惡事ニ敵ス 六 彼等ノ首長ハ巖石ノ間ニ散ジ我ガ言ヲ聽テ柔和トス 七 我等ヲ土ノ如ク斫リ碎キ我ガ骨ハ地獄ノ口ニ散テ落ツ 八 主ヤ主ヤ唯我ガ目ハ爾ヲ仰キ我爾ヲ恃ム我ガ靈ヲ退クル勿レ 九 我ガ爲ニ設ケシ弶不法者ノ羅ヨリ我ヲ護リ給ヘ 十 不虔者ハ己ノ網ニ羅リ唯我ハ過ルヲ得ン

第百四十一聖詠

ダワイドノ教訓ナリ祈禱ナリ其洞ニアル時此ヲ作ル

一 我ガ聲ヲ以テ主ニ籲ビ我ガ聲ヲ以テ主ニ禱リ 二 我ガ禱

ヲ其前ニ注ギ我ガ憂ヲ其前ニ顯ハセリ 三 我ガ靈我ノ衷ニ弱ル時爾ハ我ノ途ヲ知レリ我ガ行ク路ニ於テ彼等ハ竊ニ我ガ爲ニ網ヲ張レリ
四 我右ニ目ヲ注グニ一人モ我ヲ認ムル者ナシ我ニ遁ル丶所ナク人ノ我ガ靈ヲ顧ルナシ
五 主ヤ我爾ニ呼ンデ云ヘリ爾ハ我ノ避所ナリ生ル者ノ地ニ於テ我ノ分ナリ
六 我ガ籲ヲ聽キ給ヘ我甚ダ弱リタレバナリ我ヲ攻ル者ヨリ救ヒ給ヘ彼等ハ我ヨリ强ケレバナリ
七 我ガ靈ヲ獄ヨリ曳出シテ我ニ爾ノ名ヲ讃揚セシメ給ヘ爾恩ヲ我ニ賜フ時義人ハ我ヲ環ラントス

第百四十二聖詠

ダワィドノ詠(其子アワェサロムニ逐ハル丶時此詠ヲ作ル)

一 主ヤ我ガ禱ヲ聆ケヨ爾ノ眞實ニ依テ我ガ願ニ耳ヲ傾ケヨ爾ノ義ニ依テ我ニ聽キ給ヘ
二 爾ノ僕ト訟ヲ爲ス勿レ蓋凡ソ生命アル者ハ一モ爾ノ前ニ義トセラレザラン
三 敵ハ我ガ靈ヲ逐ヒ我ガ生命ヲ地ニ蹂リ我ヲ久ク死スル者ノ如ク暗ニ居ラシム
四 我ガ靈ハ我ノ衷ニ悶ヘ我ガ心ハ我ノ衷ニ曠キガ如シ
五 我古ノ日ヲ想ヒ凡爾ノ行ヒシヿヲ考ヘ爾ガ手ノ工作ヲ計ル
六 我ガ手ヲ伸ベテ爾ニ向ヒ我ガ靈ハ渴キシ地ノ如ク爾ヲ慕フ
七 主ヤ速ニ我ニ聽キ給ヘ我ガ靈ハ

衰ヘタリ爾ノ顔ヲ我ニ隱スコ勿レ然ラザレバ我ハ墓ニ入ル者ノ如クナラン　八我ニ夙ニ爾ノ憐ヲ聽カシメ給ヘ我爾ヲ頼メバナリ主ヤ我ニ行クベキ途ヲ示シ給ヘ我ガ靈ヲ爾ニ擧レバナリ　九主ヤ我ヲ我ガ敵ヨリ救ヒ給ヘ我爾ニ趨附ク　十我ニ爾ノ旨ヲ行フヲ教ヘ給ヘ爾ハ我ノ神ナレバナリ願ハ爾ノ善ナル神ハ我ヲ義ノ地ニ導カン　十一主ヤ爾ノ名ニ依テ我ヲ生シ給ヘ爾ノ義ニ依テ我ガ靈ヲ苦難ヨリ出シ給ヘ　十二爾ノ憐ヲ以テ我ガ敵ヲ滅シ凡ソ我ガ靈ヲ攻ル者ヲ夷ゲ給ヘ我ハ爾ノ僕ナレバナリ

光榮讚詞

第二十「カフィズマ」

第百四十三聖詠

ダワイドノ詠（ゴリアフニ敵ス）

一　讚主我ガ防固我ガ手ニ戰闘ヲ教ヘ我ガ指ニ攻擊ヲ誨フル者ニ我ガ憐我ガ守護我ガ避所我ガ救我ガ盾ナル者ハ崇讚セラル我彼ヲ恃ム彼我ガ民ヲ我ニ順ハシム　三主ヤ人ハ何物タル爾之ヲ知ルヤ人ノ子ハ何物タル爾之ヲ顧ルヤ　四人ハ吹噓ノ如ク其日ハ移ル影ノ如シ　五主ヤ爾ノ天ヲ傾ケテ降レ山ニ觸レヨ然セバ煙起タン　六電ヲ閃カシテ彼等ヲ散シ爾ノ箭ヲ發ナテ彼等ヲ亂シ給ヘ　七高キヨリ爾ノ手ヲ伸

ベテ我ヲ脱シ多ノ水ヨリ異族ノ子ノ手ヨリ我ヲ救ヒ給ヘ 八其口ハ虚ヲ言ヒ其右ノ手ハ詐ノ右ノ手ナリ 九神ヤ我新ナル歌ヲ爾ニ歌ヒ十絃ノ琴ヲ以テ爾 十諸王ニ救ヲ賜ヒ爾ノ僕ダワイドヲ残害ノ劍ヨリ脱レシムル者ニ歌ハン 十一我ヲ異族ノ子ノ手ヨリ脱シテ我ヲ救ヒ給ヘ其口ハ虚ヲ言ヒ其右ノ手ハ詐ノ右ノ手ナリ 十二願ハ我等ノ子ハ稚時成長スル植物ノ如ク我等ノ女ハ巧ニ彫刻メル宮殿ノ柱ノ如クナラン 十三願ハ我等ノ倉ハ充テ各種ノ穀物ニ豊ナラン願ハ我等ノ羊ハ千萬我等ノ牧場ニ産シ 十四我等ノ牛ハ肥エン願ハ我等ノ衢ニ掠ナク損失ナク歎息ノ聲ナカラン 十五此ノ如キ

ヲ有ル民ハ福ナリ主ヲ其神トナス民ハ福ナリ

第百四十四聖詠

ダワイドノ讃詠

一我ガ神我ガ王ヤ我爾ヲ尊ミ爾ノ名ヲ世々ニ崇讃メシ 二我日々ニ爾ヲ崇讃シ爾ノ名ヲ世々ニ讃揚ゲン 三主ハ大ニシテ讃メラルベシ其威嚴ハ測リ難シ 四世ハ世ニ爾ノ作為ヲ讃揚ゲ爾ノ能力ヲ宣ベシ 五我爾ガ威嚴ノ高大ナル光榮ト爾ガ奇異ナル作為ヲ思念セン 六人爾ガ畏ルベキ作為ノ能力ヲ語ラン我モ爾ノ威嚴ヲ宣ベシ 七人爾ガ大ナル仁慈ノ記念ヲ稱ヘ爾ノ義ヲ歌ハン 八主ハ宏慈ニシテ矜恤寛忍

ニシテ鴻恩ナリ。九 主ハ悉ノ者ニ仁慈ナリ、其宏慈ハ其悉ノ
作爲ニアリ。十 主ヤ願ハ爾ガ悉ノ作爲ハ爾ヲ讃榮シ、爾ノ聖
者ハ爾ヲ崇讃メン、十一 願ハ爾ガ國ノ光榮ヲ傳ヘ爾ノ能力ヲ
宣ベテ、十二 人ノ子ニ爾ガ能力ト爾ガ國ノ光榮ナル威嚴ヲ知
ラシメン。十三 爾ノ國ハ永遠ノ國、爾ノ宰制ハ萬世ニ迄ラン。主
ハ其悉ノ言ニ正シク其悉ノ作爲ニ聖ナリ。十四 主ハ凡ソ仆レシ
者ヲ扶ケ凡ソ墜サレシ者ヲ起ス。十五 悉ノ者ノ目ハ爾ヲ望ム、
爾ハ時ニ隨テ彼等ニ糧ヲ賜フ、十六 爾ノ手ヲ開キ恩ヲ以テ悉
ノ生ケル者ニ飽カセ給フ。十七 主ハ其悉ノ途ニ義ニシテ其悉
ノ作爲ニ仁慈ナリ。十八 主ハ凡ソ之ヲ呼ブ者凡ソ眞實ヲ以テ

之ヲ呼ブ者ニ邇シ。十九 彼ハ彼ヲ畏ルヽ者ノ望ヲ行ヒ彼等ノ
呼ブ聲ヲ聆キ彼等ヲ救フ。廿 主ハ彼ヲ愛スル悉ノ者ヲ守リ
悉ノ不虔者ヲ滅サン。廿一 我ガ口主ノ讃美ヲ述ベン、願ハ悉ノ
肉躰ハ彼ノ聖ナル名ヲ世々ニ崇讃メン。

光榮讃詞

第百四十五聖詠

(アリルイヤ)

一 我ガ靈ヤ主ヲ讃揚ゲヨ。二 我生ケル中主ヲ讃揚ゲン、我存
命ノ中吾ガ神ニ歌ハン。三 牧伯ニ倚ル毋レ、救フ能ハザル人
ノ子ニ倚ル毋レ。四 彼氣絶レバ土ニ歸リ凡ソ彼ガ謀ル所ハ

即日ニ消ユ 五 イヤコフノ神ニ佑ケラルヽ人ハ福ナリ 六 主神即天地ト海ト凡ソ其中ニ在ル物ヲ造リ永ク眞實ヲ守リ 七 窘迫ヲルヽ者ノ爲ニ判ヲナシ饑ウル者ニ糧ヲ與フル主ヲ恃ム人ハ福ナリ主ハ囚人ヲ釋キ 八 主ハ瞽者ノ目ヲ開キ主ハ屈メラレシ者ヲ起シ主ハ義人ヲ愛シ 九 主ハ羇客ヲ護リ孤子ト寡婦ヲ佑ケ惟不虔者ノ途ヲ覆ヘス 十 主ハ永遠ニ王トナラン、シオンヤ爾ノ神ハ世々ニ王トナラン

第百四十六聖詠

（アリルイヤ）

一 主ヲ讚揚ゲヨ蓋我等ノ神ニ歌フハ善ナリ蓋是甘悦ナリ

是當然ノ讚美ナリ 二 主ハイエルサリムヲ建テイズライリノ逐ハレシ者ヲ集ム 三 彼ハ心ノ傷メル者ヲ愈シ其憂ヲ療ヤス 四 彼ハ星ノ數ヲ數ヘ悉ク其名ヲ以テ之ヲ呼ブ 五 吾ガ主ハ大ニシテ其力ハ大ナリ其智慧ハ測リ難シ 六 主ハ自卑ウスル者ヲ擧ゲ惡者ヲ卑ウシテ地ニ降ス 七 輪番ヲ以テ讚頌ヲ主ニ歌ヘヨ琴ヲ以テ我ガ神ニ歌ヘヨ 八 彼ハ雲ヲ以テ天ヲ覆ヒ地ノ爲ニ雨ヲ備ヘ山ニ草ヲ生ジ人ノ需ニ野菜ヲ生ゼシム 九 食ヲ以テ獸ニ予ヘ彼ヲ呼ブノ鴉ノ雛ニ予フ 十 彼ハ馬ノ力ヲ顧ミズ人ノ足ノ急キヲ喜バズ 十一 主ハ彼ヲ畏ルヽ者其憐ヲ恃ム者ヲ喜ブ

第百四十七聖詠

（アリルイヤ）

一 イエルサリムヤ主ヲ讚揚ゲヨシオンヤ爾ノ神ヲ讚揚ゲヨ 二 蓋彼ハ爾ガ門ノ杜ヲ固メ爾ノ中ニ於テ爾ノ子ニ福ヲ降シ 三 平安ヲ爾ノ域ニ施シ嘉麥ヲ爾ニ飽カシム 四 彼其言ヲ地ニ遣ス其言ハ行クヿ速ナリ 五 彼ハ雪ヲ降スヿ羊ノ毛ノ如ク霜ヲ撒クヿ灰ノ如ク 六 其雹ヲ擲ツヿ塊ノ如シ孰カ其嚴寒ヲ凌ガン 七 彼其言ヲ遣セバ悉ク融ケン其風ヲ噓ケバ水流レン 八 彼其言ヲイヤコフニ示シ其律ト其定ヲイズライリニ示セリ 九 彼曾テ他ノ何ノ民ニモ之ヲ行ハズ彼等ハ其定ヲ知ラズ。

光榮讚詞

第百四十八聖詠

（アリルイヤ）

一 天ヨリ主ヲ讚揚ゲヨ至高ニ彼ヲ讚揚ゲヨ 二 其悉ノ神使ヤ彼ヲ讚揚ゲヨ其悉ノ軍ヤ彼ヲ讚揚ゲヨ 三 日ト月ヤ彼ヲ讚揚ゲヨ悉ノ光ル星ヤ彼ヲ讚揚ゲヨ 四 諸天ノ天ト天ヨリ上ナル水ヤ彼ヲ讚揚ゲヨ 五 主ノ名ヲ讚揚グベシ蓋彼言フテ即成リ命ジテ即造クラレタリ 六 彼ハ之ヲ立テ、世々ニ至ラシメ法ヲ與ヘテ過ギザラシメン 七 地ヨリ主ヲ讚揚ゲ

ヨ大魚ト悉ノ淵 八 火ト霰雪ト霧主ノ言ニ從フノ暴風 九 山
ト悉ノ陵果ノ樹ト悉ノ栢香木 十 野獸ト諸ノ家畜匍フ物ト
飛ブ鳥 十一 地ノ諸王ト萬民牧伯ト地ノ諸有司 十二 少年ト處女
翁ト童ハ 十三 主ノ名ヲ讚揚グベシ蓋惟其名ハ高ク擧ゲラレ
其光榮ハ天地ニ徧シ、十四 彼ハ其民ノ角ヲ高ウシ其諸聖人イ
ズライリノ諸子彼ニ親キ民ノ榮ヲ高ウセリ

第百四十九聖詠

(アリルイヤ)

一 新ナル歌ヲ主ニ歌ヘヨ其讚美ハ聖者ノ會ニ在リ 二 イズ
ライリハ己ヲ造リシ者ノ爲ニ樂ムベシシオンノ子ハ己ノ

王ノ爲ニ喜ブベシ 三 舞ヲ以テ彼ノ名ヲ讚揚ゲ皷ト琴ヲ以
テ彼ニ歌フベシ 四 蓋主ハ其民ヲ惠ミ救ヲ以テ己ヲ卑ウス
ル者ヲ榮エシム 五 諸聖人ハ光榮ニ在テ祝ヒ其榻ニ在テ歡
ブベシ 六 其口ニハ神ノ讚榮アリ其手ニハ兩刄ノ劔アリテ
七 仇ヲ諸民ニ報イ罰ヲ諸族ニ行ヒ 八 其諸王ヲ索ニ縛リ其
諸侯ヲ鐵鎖ニ繫ギ 九 彼等ノ爲ニ記サレシ審判ヲ行フベシ
斯榮ハ其悉ノ聖人ニ在リ

第百五十聖詠

(アリルイヤ)

一 神ヲ其聖所ニ讚揚ゲヨ彼ヲ其有力ノ穹蒼ニ讚揚ゲヨ 二

其權能ニ依テ彼ヲ讚揚ゲヨ其至嚴ナルニ依テ彼ヲ讚揚ゲヨ 三 角ノ聲ヲ以テ彼ヲ讚揚ゲヨ琴ト瑟ヲ以テ彼ヲ讚揚ゲヨ 四 皷ト舞ヲ以テ彼ヲ讚揚ゲヨ絃ト簫ヲ以テ彼ヲ讚揚ゲヨ 五 和聲ノ鈸ヲ以テ彼ヲ讚揚ゲヨ大聲ノ鈸ヲ以テ彼ヲ讚揚ゲヨ 六 凡ソ呼吸アル者ハ主ヲ讚揚ゲヨ

光榮讚詞

左ノ詠經中ニ加ヘズダワィド別ニ此ヲ作リ以テゴリアフト戰フヿヲ記ス

一 我昔我ガ兄弟ノ中ニ於テ至テ小ク我ガ父ノ家ニ於テ最少ク我我ガ父ノ羊群ヲ牧リニ我ガ手笙ヲ作リ我ガ指琴ヲ調ベリ 三 孰カ我ガ主ニ告ゲン主親ラ聽キ 四 親ラ其使ヲ遣ハシ我ヲ我ガ父ノ羊群ヨリ取リ其聘質ノ膏ヲ以テ我ヲ膏セリ 五 我ガ兄弟美ニシテ大ナレ圧主ハ彼等ヲ選ブヲ喜バズ 六 我出デ、異邦人ニ向フニ彼其偶像ヲ以テ我ヲ詛ヘリ 七 然レ圧我其劔ヲ奪ヒ其首ヲ斬テイズライリノ子ノ恥ヲ雪ゲリ

聖詠經終

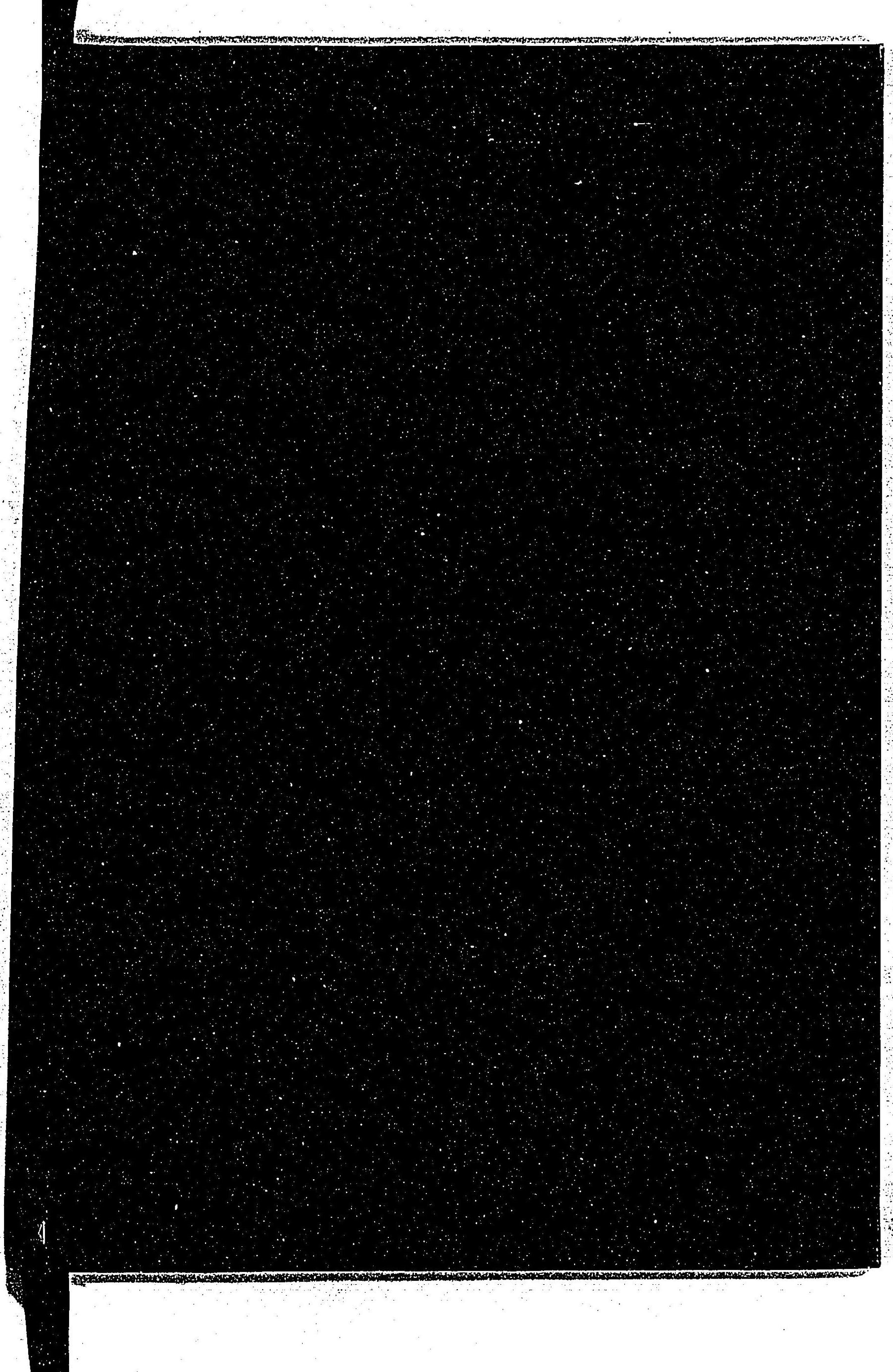
附錄

正教會ノ例死者七歳以上ナレバ其尸沐浴襲服スルノ後葬ルニ至ルマデ讀經者或ハ親族朋友男女ヲ論ゼズ更其傍ニ於テ聖詠經ヲ讀ム之ヲ讀ム時每光榮讚詞ノ後左ノ祝文ヲ誦ス

主我ガ神ヤ信ト永生ノ望ヲ懷テ此世ヲ過去リシ爾ノ僕(婢)我ガ兄弟(姉妹)(某)ヲ記憶シ爾ガ仁慈ニ〆人ヲ愛シ諸罪ヲ赦シ不義ヲ滅スノ主ナルニヨリ彼ガ悉ノ自由ト自由ナラザルノ罪ヲ宥〆之ヲ釋キ之ヲ赦シ給ヘ彼ヲ永遠ノ苦ト地獄ノ火ヨリ脱レシ〆彼ニ爾ヲ愛スル者ノ爲ニ備ヘラレタル

爾ガ永遠ノ幸福ニ與カリ之ヲ樂マシメ給ヘ蓋彼罪ヲ犯セシト雖爾ニ離レズ疑ナク爾父ト子ト聖神三位ニ於テ讚榮セラルヽノ神ヲ信シ三位ニ一性一性ニ三位ヲ正ク承認メテ臨終ノ息ニ至レリ故ニ彼ニ憐ヲ垂レ爾ヲ信ズルノ信ヲ其行ニ代ヘテ爾ガ恵ノ深キニ依テ彼ヲ爾ノ聖者ト偕ニ安ゼシメ給ヘ蓋人生キテ罪ヲ行ハザル者ナシ惟爾獨罪ナシ爾ノ義ハ永遠ノ義ナリ且爾ハ獨憐ト恵ト仁慈ノ神ナリ我等爾父ト子ト聖神ニ光榮ヲ歸ス今モ何時モ世々ニ「アミン」

27
78



27
78

020864-000-3

27-78

聖詠経

正教会/訳

M18

ABI-0697